



藤 沢 市

下 水 道 設 計 標 準 図

藤 沢 市 道 路 下 水 道 部

発行年月	昭和55年 1月
改訂年月	昭和62年 4月
一部改訂年月	平成 8年 7月
改訂年月	平成11年 4月
改訂年月	平成23年 7月
一部改訂年月	平成26年 7月
一部改訂年月	平成29年 4月
一部改訂年月	令和 7年 8月

下水道設計標準図使用上の注意事項

- 本標準図は、藤沢市において施工する下水道工事の共通的な構造物を、標準の設計方式及び設計条件に基づいたもので、特別な設計条件に係わる構造物を除き適用する。
- 本標準図の材料については、JIS規格及び下水道協会規格(JSWAS)等を基準とし記載しているが使用にあたってはあらかじめ確認を受けるものとする。
- 本標準図の製品、施工図等において、寸法及び形状は参考としている場合があるため、使用時、施工時に注意すること。

目次

【第1章】布設図

合流式布設標準図	1- 1
分流式布設標準図	1- 2

【第2章】遠心力鉄筋コンクリート管

遠心力鉄筋コンクリート管（B形）	
規格図	2- 1
規格寸法表	2- 2
外圧強さ及び寸法許容差表	2- 3
遠心力鉄筋コンクリート管（NB形）	
規格図	2- 4
規格寸法表	2- 5
外圧強さ及び寸法許容差表	2- 6
遠心力鉄筋コンクリート管（NC形）	
規格図	2- 7
規格寸法表	2- 8
外圧強さ及び寸法許容差表	2- 9

【第3章】下水道用硬質塩化ビニル管規格図

直管（共通・ゴム輪）	3- 1
直管（接着・プレーンエンド）	3- 2
受口	3- 3
曲管（15°・30°）	3- 4
曲管（45°・60°）	3- 5
曲管（90°）・接着受口カラー	3- 6
自在曲管（0°・15°・30°）	3- 7
自在曲管（45°・60°・75°）	3- 8
鉄筋コンクリート管及び陶管用A型90°支管	3- 9
硬質塩化ビニル管用90°支管	3-10
副管用90°支管	3-11

【第4章】管基礎

管の種類と基礎・地盤の区分例（参考）	4- 1
剛性管きよの基礎の種類	4- 2

可とう性管きよの基礎の種類	4- 3
---------------	------

【第5章】掘削及び埋戻し等

掘削及び埋戻し標準図（参考）	5- 1
軽量鋼矢板・アルミ矢板及び 軽量金属支保工設置標準図（参考）	5- 2

【第6章】埋設管表示

埋設下水道管明示方法（塩ビ管用）	6- 1
埋設下水道管明示方法（鉄筋コンクリート管用）	6- 2

【第7章】マンホール

マンホール間隔等一覧	7- 1
組立式0号マンホール構造図（参考）	7- 2
組立式0号マンホール底版構造図（参考）	7- 3
組立式1号マンホール構造図（参考）	7- 4
組立式1号マンホール底版構造図（参考）	7- 5
組立式1号マンホール中間スラブ構造図（参考）	7- 6
組立式2号マンホール構造図Ⅰ（参考）	7- 7
組立式2号マンホール構造図Ⅱ（参考）	7- 8
組立式2号マンホール底版構造図（参考）	7- 9
組立式2号マンホール中間スラブ構造図（参考）	7-10
組立式3号マンホール構造図 蓋φ900（参考）	7-11
組立式3号マンホール構造図 蓋φ600（参考）	7-12
組立式3号マンホール底版構造図（参考）	7-13
組立式3号マンホール中間スラブ構造図（参考）	7-14
組立式楕円マンホール構造図（参考）	7-15
小型マンホール（塩ビ製）構造図（参考）	7-16
小型マンホール（塩ビ製）構造図 落差がある場合（参考）	7-17
インバート図	7-18
合流式足掛金物設置図（例）	7-19
分流式足掛金物設置図（例）	7-20

【第8章】可とう性継手

目 次

可とう性継手（参考）	8- 1
マンホール部可とう性継手使用方法（参考）	8- 2

【第 9 章】マンホール落差処理

飛散防止板標準構造図	9- 1
飛散防止板数量表	9- 2
外副管標準構造図	9- 3
外副管標準構造図（副管直下に流入がある場合）	9- 4
内副管（スリムタイプ）標準構造図（参考）	9- 5

【第 10 章】藤沢市型下水道用鋳鉄製マンホール蓋（合流・汚水・雨水）

T-14 転落防止梯子付（参考）	10- 1
T-25 転落防止梯子付（参考）	10- 2

【第 11 章】藤沢市型塩ビます標準構造図

φ 300 汚水・合流 宅内用（参考）	11- 1
φ 300 雨水 宅内用（参考）	11- 2
φ 300 汚水・合流 車道用（T-14・T-25）（参考）	11- 3
φ 300 雨水 車道用（T-14・T-25）（参考）	11- 4
φ 200 汚水・合流 宅内用（参考）	11- 5
φ 200 雨水 宅内用（参考）	11- 6
φ 200 汚水・合流 車道用（T-14）（参考）	11- 7
φ 200 雨水 車道用（T-14）（参考）	11- 8
φ 200 汚水・合流 車道用（T- 8）（参考）	11- 9
φ 200 雨水 車道用（T- 8）（参考）	11-10
φ 200 雨水 車道用（T- 8）浸透不可地域用（参考）	11-11
φ 200 雨水 車道用（T-14）浸透不可地域用（参考）	11-12
φ 200 雨水 宅内用 浸透不可地域用（参考）	11-13
φ 300 雨水 車道用（T-14・T-25） 浸透不可地域用（参考）	11-14
φ 300 雨水 宅内用 浸透不可地域用（参考）	11-15

【第 12 章】藤沢市型下水道用鋳鉄製防護蓋及び台座 （合流・汚水・雨水）

φ 300 T-14（参考）	12- 1
φ 300 T-25（参考）	12- 2
φ 200 T-14（参考）	12- 3
φ 200 T- 8（参考）	12- 4

【第 13 章】取付管布設図

取付管布設図 1.50m≧平均土被り（参考）	13- 1
取付管布設図 1.50m<平均土被り（参考）	13- 2

【第 14 章】雨水ます構造図

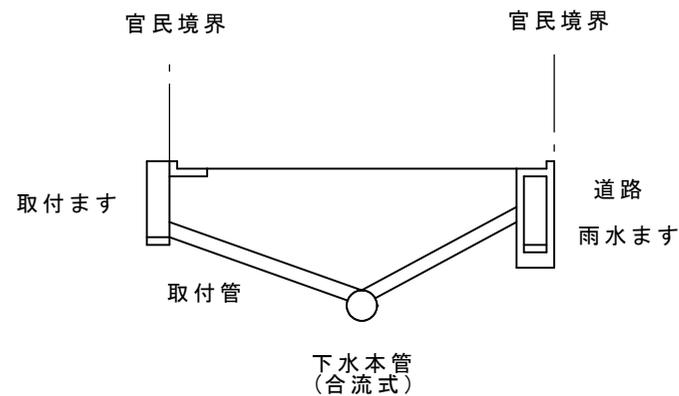
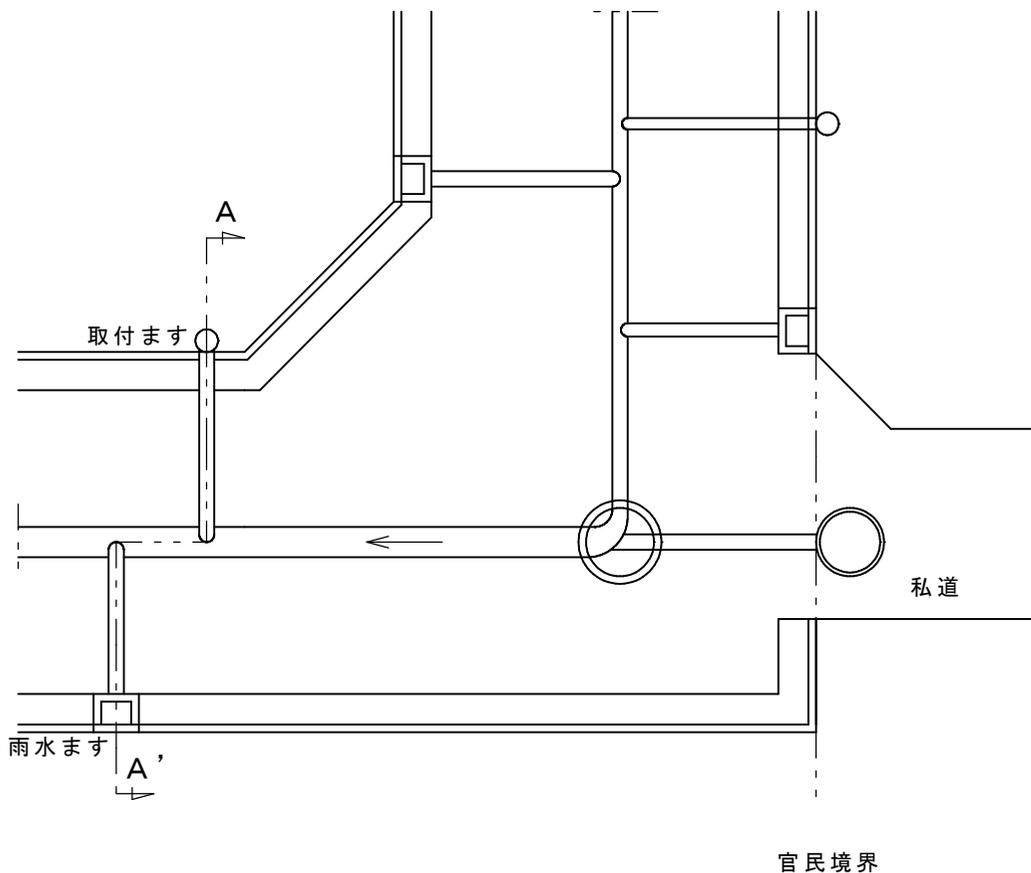
雨水ます構造図（藤沢市B型、浸透不可地域用）	14- 1
雨水ます構造図（藤沢市B型）	14- 2
藤沢市型雨水ます（B型用）グレーチング（テーパー付）	14- 3

【第 15 章】図面記載例

マンホール他記号表	15- 1
平面図記載方法（参考）	15- 2
縦断面図記載方法（参考）	15- 3
竣工図（平面図）記載方法（参考）	15- 4
竣工図（縦断面図）記載方法（参考）	15- 5
マンホールオフセット図記載方法（参考）	15- 6

平面図

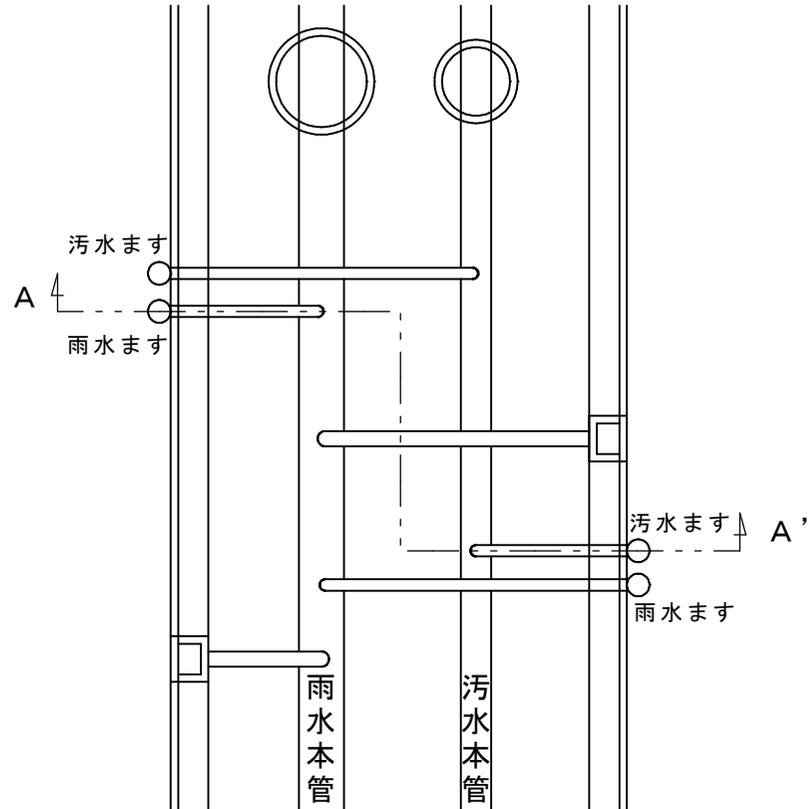
A - A' 断面図



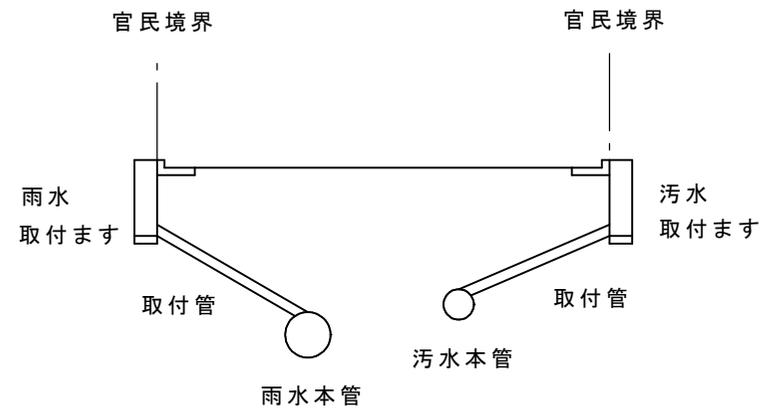
備考

- ・取付管位置は、本管の水平方向の中心線から上方に取り付けること。
- ・占用位置については、道路管理者と協議すること。

平面図

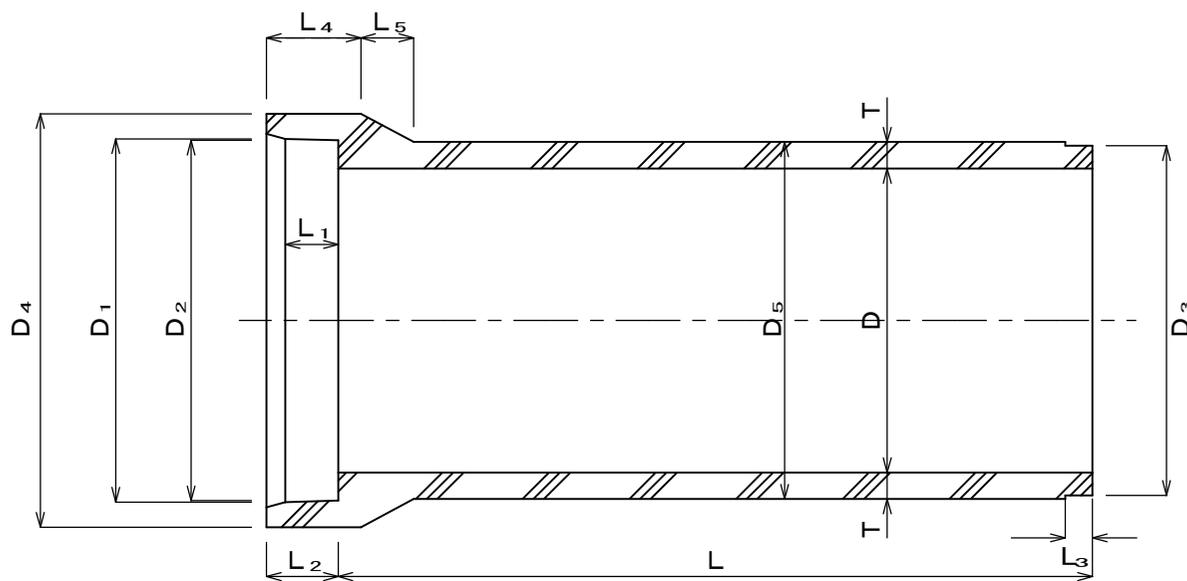


A - A' 断面図



備考

- ・ 取付管位置は、本管の水平方向の中心線から上方に取り付けること。
- ・ 占用位置については、道路管理者と協議すること。



(単位：mm)

呼び径	D	D ₁	D ₂	D ₃	D ₄	T	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L	管外径 D ₅	参考重量 kg/本	呼び径	
150	150	210	206	194	262	26	65	90	32	115	50	2000	202	77	150	
200	200	262	258	246	316	27					55		254	103	200	
250	250	314	310	298	370	28				36	120		60	306	131	250
300	300	368	364	350	424	30							65	360	165	300
350	350	422	418	404	482	32							70	414	204	350
400	400	478	474	460	544	35	70	95	125	70	2430	470	306	400		
450	450	534	530	516	606	38				75		75	526	373	450	
500	500	592	588	574	672	42				80		85	584	459	500	
600	600	708	704	690	804	50	75	100	135	100		700	660	600		
700	700	824	820	802	936	58		105	140	115		816	899	700		
800	800	940	936	918	1068	66	80	110	40	150	130	932	1170	800		
900	900	1058	1054	1036	1204	75	85	115		160	150	1050	1520	900		
1000	1000	1172	1168	1150	1332	82	96	120		165	165	1164	1850	1000		
1100	1100	1286	1282	1260	1458	88	100	125	42	175	175	1276	2190	1100		
1200	1200	1400	1396	1374	1586	95	104	130		185	190	1390	2600	1200		
1350	1350	1566	1562	1540	1768	103	108	135		195	205	1556	3190	1350		

・ JIS A 5372
 ・ JSWAS A-1
 ・ 呼び径150及び200の管の有効長(L)は500mm又は1000mm、呼び径250～350の管の有効長(L)は1000mm、呼び径400～1350の管の有効長(L)は1200mmとすることができる。

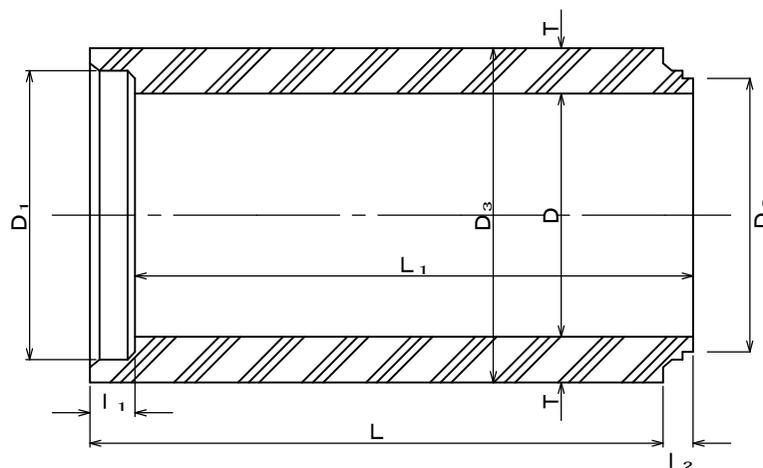
呼び径	ひびわれ荷重 (kN/m)		破壊荷重 (kN/m)		寸法許容差 (mm)								
	1 種	2 種	1 種	2 種	D	D ₁ D ₃	T	L ₂	L ₃	L			
150	16.7	23.6	25.6	47.1	±3	±2	+3 -2	±5	±4	+10 -5			
200													
250													
300	17.7	25.6	26.5	51.1	±4		+4 -2				±5	±4	+10 -5
350	19.7	27.5	29.5	55.0									
400	21.6	32.4	32.4	62.8									
450	23.6	36.3	35.4	66.8									
500	25.6	41.3	38.3	70.7									
600	29.5	49.1	44.2	77.5									
700	32.4	54.0	49.1	85.4									
800	35.4	58.9	53.0	93.2	±6	+3 -2	±5	±5	+10 -5				
900	38.3	63.8	57.9	101.0									
1000	41.3	68.7	61.9	108.0									
1100	43.2	72.6	65.8	113.0									
1200	45.2	75.6	71.7	118.0									
1350	47.1	79.5	81.5	126.0		+6 -3							

(単位：mm)

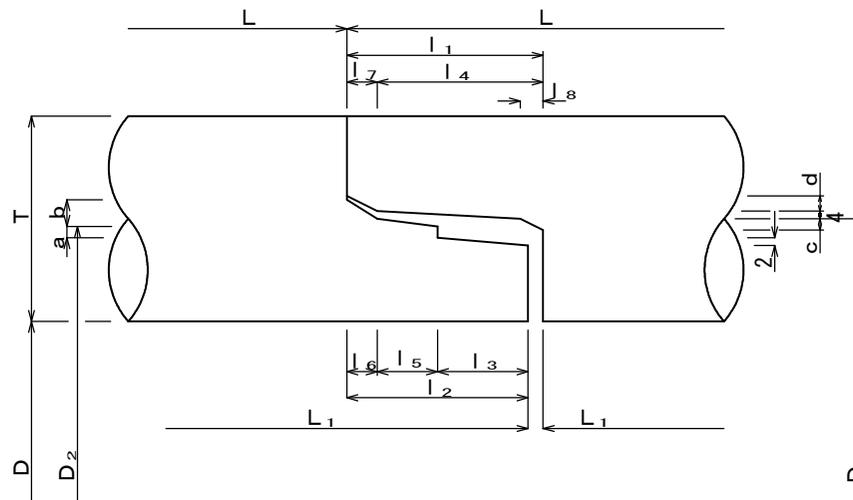
呼び径	D	D ₁	D ₂	D ₃	D ₄	T	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L	管外径 D ₅	参考重量 kg/本	呼び径
150	150	210	206	194	262	26	72	90	32	115	50	2000	202	77	150
200	200	262	258	246	316	27					55		254	103	200
250	250	314	310	298	370	28				76	36		120	60	306
300	300	368	364	350	424	30	65	360	165			300			
350	350	422	418	404	482	32	86	95	125			70	470	306	400
400	400	478	474	460	544	35				75	526	373	450		
450	450	534	530	516	606	38			90	100	130	85	584	459	500
500	500	592	588	574	672	42	135	100				700	660	600	
600	600	708	704	690	804	50	90	105			140	115	816	899	700
700	700	824	820	802	936	58			150	130		932	1170	800	
800	800	940	936	918	1068	66			90	110	150	130	1050	1520	900
900	900	1058	1054	1036	1204	75	115	160							

・ JIS A 5372
 ・ JSWAS A-1
 ・ 呼び径150及び200の管の有効長(L)は500mm又は1000mm、呼び径250～350の管の有効長(L)は1000mm、呼び径400～900の管の有効長(L)は1200mmとすることができる。

呼び径	ひびわれ荷重 (kN/m)		破壊荷重 (kN/m)		寸法許容差 (mm)						
	1 種	2 種	1 種	2 種	D	D ₁ D ₃	T	L ₂	L ₃	L	
150	16.7	23.6	25.6	47.1	±3	±2	+3 -2	±5	±4	+10 -5	
200											
250											
300	17.7	25.6	26.5	51.1	±4		+4 -2				±5
350	19.7	27.5	29.5	55.0							
400	21.6	32.4	32.4	62.8							
450	23.6	36.3	35.4	66.8							
500	25.6	41.3	38.3	70.7							
600	29.5	49.1	44.2	77.5	+3 -2		±5				
700	32.4	54.0	49.1	85.4							
800	35.4	58.9	53.0	93.2							
900	38.3	63.8	57.9	101.0							



継手部詳細 (参考)



- ・ JIS A 5372
- ・ JSWAS A-1
- ・ 各寸法値については、2-11規格寸法表参照のこと。

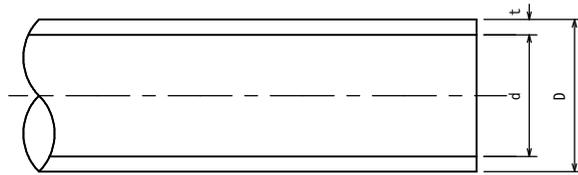
(単位：mm)

呼び径	D	D ₁	D ₂	T	l ₁	l ₂	l ₃	l ₄	l ₅	l ₆ , l ₇	l ₈	a	b	c	d	L	L ₁	管外径 D ₃	参考重量 kg/本	呼び径						
1500	1500	1632	1598	140	120	115	55	105	45	15	25	10	12	9	12	2300	2295	1780	4050	1500						
1650	1650	1792	1758	150														1950	4760	1650						
1800	1800	1950	1916	160														2120	5530	1800						
2000	2000	2164	2130	175														2350	6710	2000						
2200	2200	2378	2344	190														2580	8010	2200						
2400	2400	2594	2550	205	135	130	65	120	50		30	12	12											2810	9400	2400
2600	2600	2808	2764	220																				3040	10900	2600
2800	2800	3022	2978	235																				3270	12600	2800
3000	3000	3236	3192	250																				3500	14300	3000

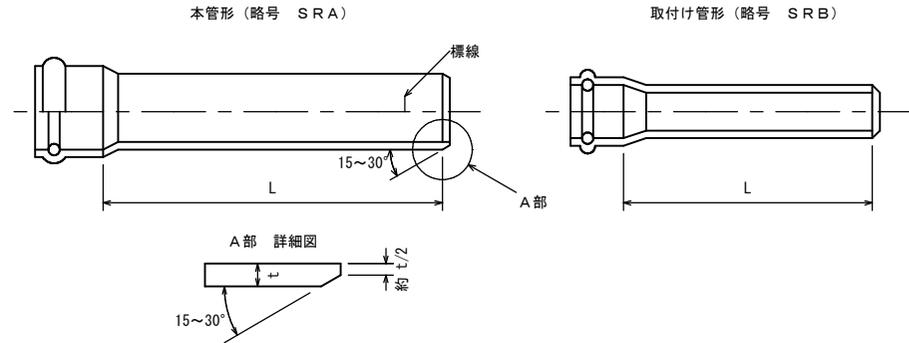
- ・ JIS A 5372
- ・ JSWAS A-1
- ・ 呼び径1500～1800の管の有効長(L)は、1080mmとすることができる。

呼び径	ひびわれ荷重 (kN/m)			破壊荷重 (kN/m)			寸法許容差 (mm)					
	1 種	2 種	3 種	1 種	2 種	3 種	D	D ₁	D ₂	T	I ₁ , I ₂	L, L ₁
1500	50.1	83.4	110.0	91.3	134.0	165.0	± 8	± 3	± 2	+ 8 - 4	± 2	+ 10 - 5
1650	53.0	88.3	117.0	102.0	143.0	176.0						
1800	56.0	93.2	123.0	111.0	151.0	185.0						
2000	58.9	98.1	130.0	118.0	161.0	195.0	± 10	± 3	± 2	+ 10 - 5		
2200	61.9	104.0	137.0	124.0	172.0	206.0						
2400	64.8	108.0	143.0	130.0	183.0	214.0						
2600	67.7	113.0	150.0	136.0	193.0	224.0	± 12	± 4	± 3	+ 12 - 6		
2800	70.7	118.0	155.0	142.0	204.0	233.0						
3000	73.6	123.0	162.0	148.0	213.0	244.0						

直管部寸法（共通）



ゴム輪受口片受け直管寸法



(単位：mm)

呼び径	外 径		厚 さ		近似内径 d (参 考)	1m当たりの 質量(kg) (参 考)
	D	平均外径の 許 容 差	t(最小)	許 容 差		
75	89	±0.3	2.7	±0.6	83	1.159
100	114	±0.4	3.1	±0.8	107	1.737
125	140	±0.5	4.1		131	2.739
150	165		5.1		154.0	3.941
200	216	±0.7	6.5	±1.0	202.0	6.572
250	267	±0.9	7.8	±1.2	250.2	9.758
300	318	±1.0	9.2	±1.4	298.2	13.701
350	370	±1.2	10.5		347.6	18.051
400	420	±1.3	11.8		394.8	23.059
450	470	±1.5	13.2	±1.8	441.8	28.875
500	520	±1.6	14.6	±2.0	488.8	35.346
600	630	±3.2	17.8	±2.8	591.6	52.679

(単位：mm)

呼び径	L
100	4000 ± 15
125	
150	
200	
250	
300	
350	
400	
450	
500	
600	

(単位：mm)

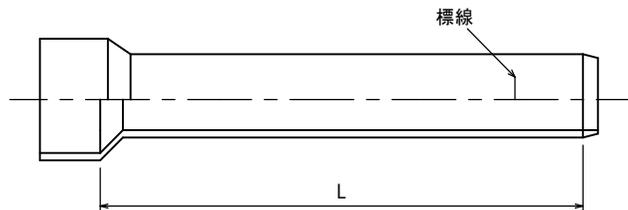
呼び径	L
100	800 ± 10
125	
150	
200	4000 ± 15

※面取りの形状は規定しない。

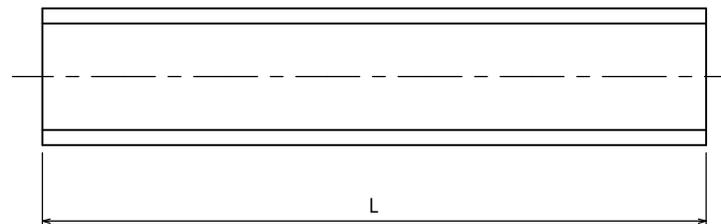
- ・平均外径の許容差とは、任意断面における直角2方向以上の外径測定値の平均値（平均外径）と基準寸法との差をいう。
- ・表中1m当たりの質量は、密度1.43 (g/cm³) で算出したものである。
- ・内径は、管の厚さを t（最小）+許容差/2として算出したものである。
- ・ J I S K 6 7 4 1 J S W A S K - 1

接着受口片受け直管寸法

(略号 ST)



プレーンエンド直管寸法



(単位：mm)

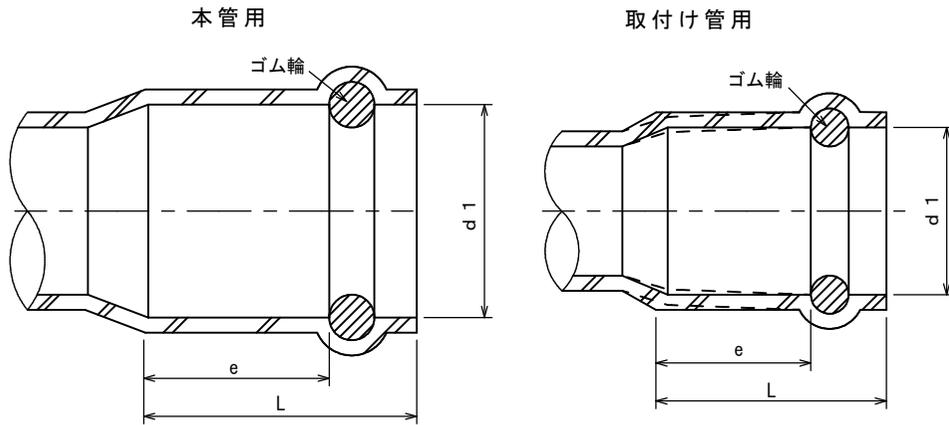
呼び径	L
100	4000±15
125	
150	
200	
250	
300	
350	
400	
450	
500	
600	

※面取りの形状は規定しない。

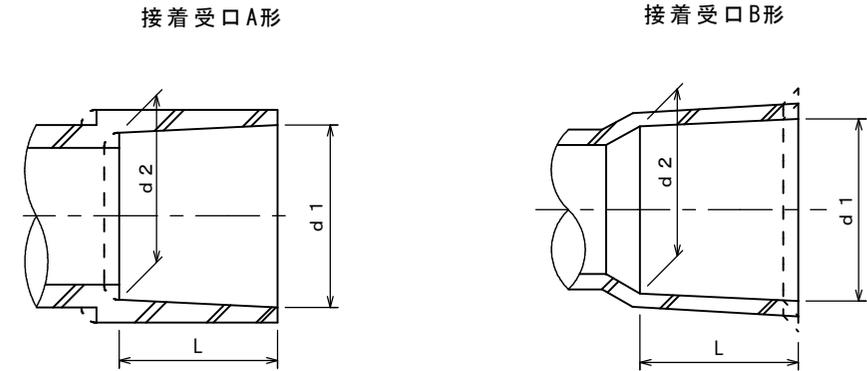
(単位：mm)

呼び径	L
75	4000±10
100	
125	
150	
200	
250	
300	
350	
400	
450	
500	
600	

ゴム輪受口



接着受口



(単位: mm)

呼び径	受口内径 d1 (最小)	接合長さ e (最小)	受口長さ L (最大)
100	114.5	42	145
125	140.6	44	155
150	165.7	53	165
200	216.9	54	185
250	268.1	59	205
300	319.3	62	225
350	371.5	67	240
400	421.7	72	260
450	471.9	77	285
500	522.1	82	305
600	633.8	93	355

(単位: mm)

呼び径	受口内径 d1 (最小)	接合長さ e (最小)	受口長さ L (最大)
100	115.0	48	90
125	141.0	53	99
150	166.0	58	108
200	218.0	69	126

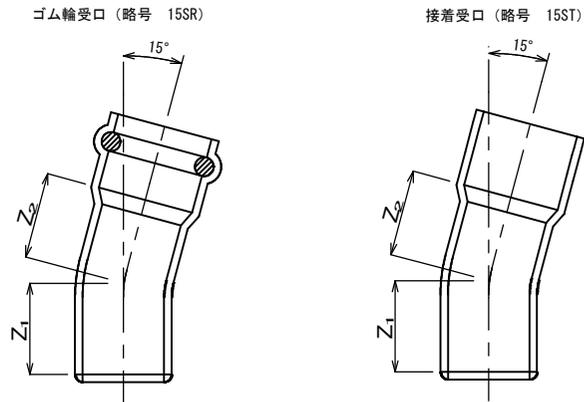
(単位: mm)

呼び径	受口内径				受口長さ	
	d1	許容差	d2	許容差	L	許容差
75	89.6	±0.3	88.3	±0.3	40	±5
100	114.8	±0.4	113.2	±0.4	50	
125	140.9		139.1		65	
150	166.1	±0.5	163.9	±0.5	80	±10
200	217.4	±0.6	214.6	±0.6	115	
250	268.6		265.4		140	
300	319.8	±0.7	316.2	±0.7	165	
350	372.0		368.7		200	
400	422.3	±0.8	418.4	±0.8	220	
450	472.6	±0.9	468.1	±0.9	250	
500	522.8		518.2		280	
600	634.3		±1.1		626.7	±1.1

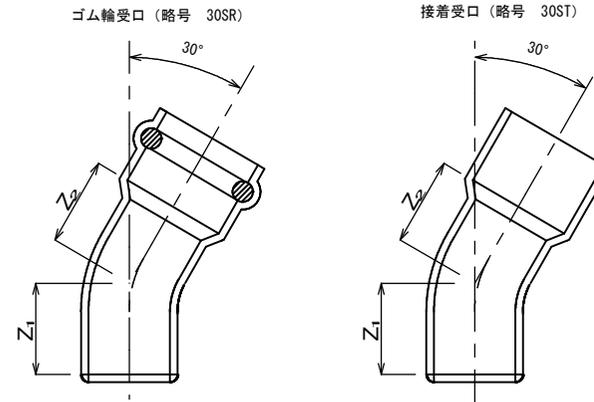
備考

- 破線で示す形状にすることもできる。
- ゴム輪の形状及びゴム輪周辺部の形状は、規定しない。
- 受口内径d1及びd2は、直角2方向以上の内径測定値の平均値とする。
- 接着受口A形の受口長さを、呼び径250はL=125±10、呼び径300はL=140±10とすることができる。
- JIS K 6741 JSWAS K-1

15° 曲管寸法



30° 曲管寸法



(単位: mm)

呼び径	Z ₁	Z ₂ (最小)
100	110	5
125	118	10
150	129	15
200	149	25

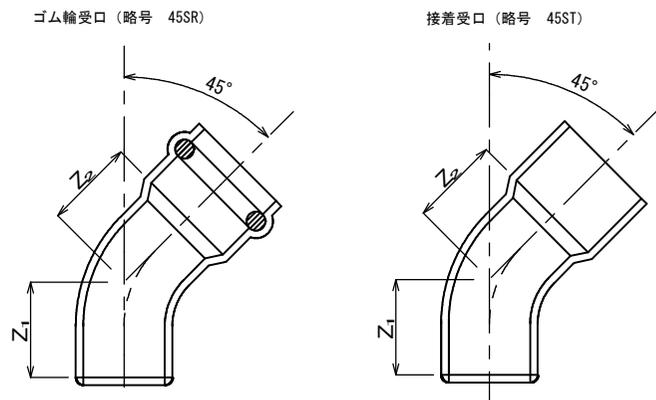
(単位: mm)

呼び径	Z ₁	Z ₂ (最小)
100	138	5
125	146	10
150	159	15
200	187	25

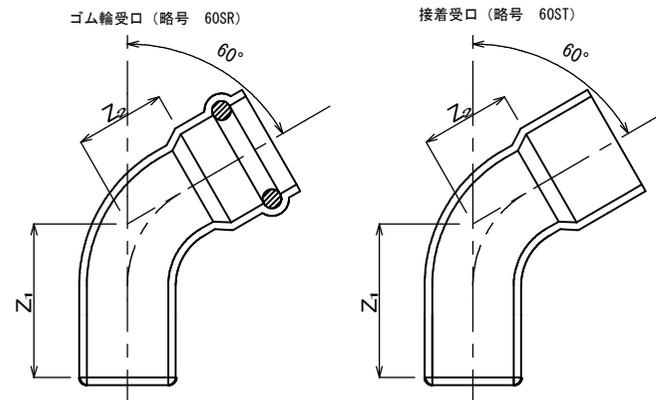
備考

- ・Z₁の許容差は、±15mmとする。
- ・面取りの形状は規定しない。
- ・ゴム輪受口は、取付け管形とする。
- ・JIS K 6741 JSWAS K-1

45° 曲管寸法



60° 曲管寸法



(単位: mm)

呼び径	Z ₁	Z ₂ (最小)
100	167	35
125	175	
150	191	40
200	228	55

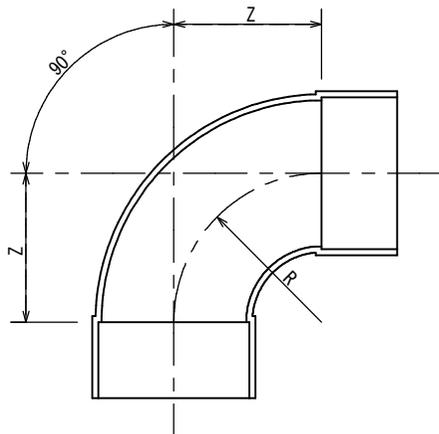
(単位: mm)

呼び径	Z ₁	Z ₂ (最小)
100	199	55
125	207	
150	227	60
200	274	75

備考

- ・ Z₁の許容差は、±15mmとする。
- ・ 面取りの形状は規定しない。
- ・ ゴム輪受口は、取付け管形とする。
- ・ JIS K 6741 JSWAS K-1

90° 曲管寸法
(略号 90ST)

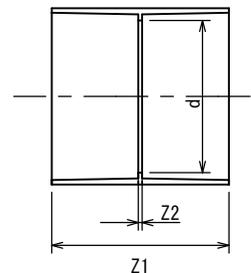


寸法表

(単位: mm)

呼び径	Z	R(参考)
75	100	100
100	128	128
125	140	140
150	170	170
200	196	196
250	225	225
300	250	250

接着受口カラー寸法
(略号 WTB)



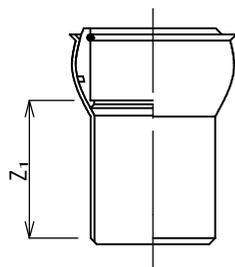
寸法表

(単位: mm)

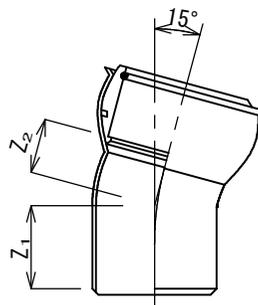
呼び径	Z ₁	Z ₂	d(参考)
75	84	4	83
100	105	5	107
125	135	5	131
150	165	5	154
200	235	5	202
250	276	5	250
300	307	5	298

- ・ Zの許容差は、±15mmとする。
- ・ Z₁の許容差は、呼び径75~150は±10mm、呼び径200~300は±20mmとする。
- ・ Z₂の許容差は、±2mmとする。
- ・ J I S K 6 7 4 1 J S W A S K - 1

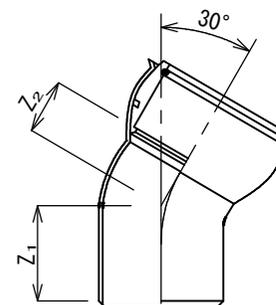
0° 自在曲管 (略号 0SRF)



15° 自在曲管 (略号 15SRF)



30° 自在曲管 (略号 30SRF)



(単位: mm)

呼び径	Z ₁ (最小)
100	90
125	100
150	110
200	125

(単位: mm)

呼び径	Z ₁ (最小)	Z ₂ (最小)
100	90	30
125	100	31
150	101	40
200	121	54

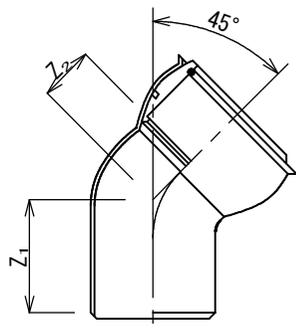
(単位: mm)

呼び径	Z ₁ (最小)	Z ₂ (最小)
100	98	30
125	110	41
150	117	50
200	140	75

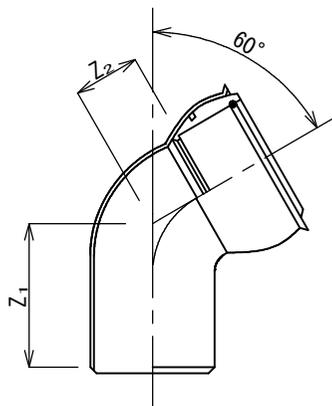
備考

- ・ゴム輪受口は、取付け管形(自在)とする。
- ・面取りの形状は規定しない。
- ・JIS K 6741 JSWAS K-1

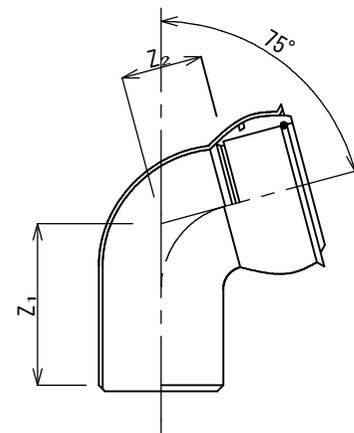
45° 自在曲管 (略号 45SRF)



60° 自在曲管 (略号 60SRF)



75° 自在曲管 (略号 75SRF)



(単位: mm)

呼び径	Z ₁ (最小)	Z ₂ (最小)
100	107	40
125	120	51
150	130	68
200	155	93

(単位: mm)

呼び径	Z ₁ (最小)	Z ₂ (最小)
100	112	50
125	126	61
150	134	75
200	175	121

(単位: mm)

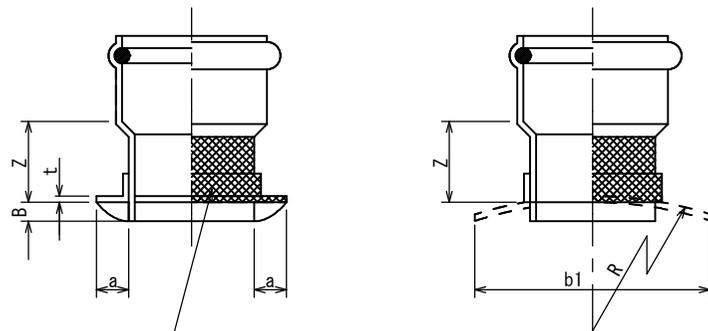
呼び径	Z ₁ (最小)	Z ₂ (最小)
100	123	60
125	140	75
150	155	95
200	195	135

備考

- ・ゴム輪受口は、取付け管形(自在)とする。
- ・面取りの形状は規定しない。
- ・JIS K 6741 JSWAS K-1

鉄筋コンクリート管及び陶管用A形90°支管
(略号 A90SHR)

(単位: mm)



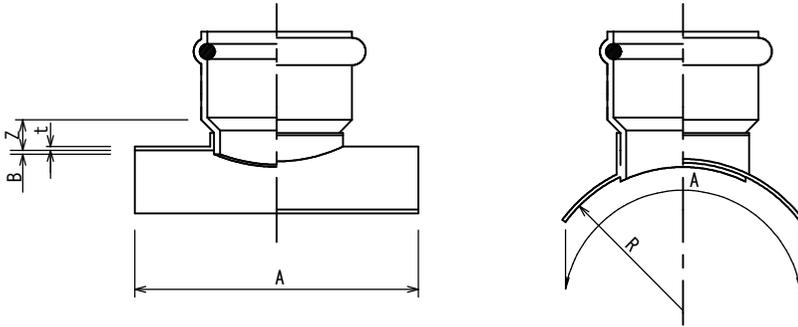
砂付け又はシボ加工とする。

呼び径	Z	t (最小)	a (最小)	b1 (最小)	B (最大)
100	45	4	35	70	25
125				90	
150	50			100	
200				140	

備考

- ・ Zの許容差は、±15mmとする。
- ・ Rは、本管の呼び径500以下は200mm、600以上は600mmを標準とする。
- ・ 破線で示す形状にすることもできる。
- ・ ゴム輪受口は、取付管形とする。
- ・ シボ加工とは、プラスチックの表面(裏面)に水玉模様あるいは梨地等の浅い凸凹を付ける加工をいう。
- ・ J I S K 6 7 4 1 J S W A S K - 1

硬質塩化ビニル管用90°支管
(略号 90SVR)



(単位 : mm)

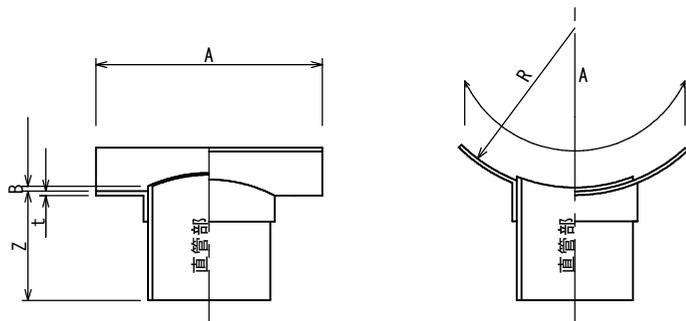
呼び径	Z	t (最小)	A (最小)	B (最大)	R	呼び径	Z	t (最小)	A (最小)	B (最大)	R
150-100	45	4	300	230	82.5	400-100	45	4	300	11.8	210.0
200-100						400-125					
200-125						400-150					
200-150	50			6.5	108.0	400-200	50				
250-100	450-100					45					
250-125	450-125										
250-150	450-150			50	7.8		133.5			450-200	
250-200	450-250										
300-100	45					9.2				159.0	
300-125	500-125										
300-150	500-150			50	10.5		185.0				
300-200	500-250										
350-100	45	600-100	45								
350-125	600-125										
350-150	50	600-150		50							
350-200	600-200										

備考

- ・呼び径は、「本管呼び径-取付け管呼び径」である。
- ・Zの許容差は、±15mmとする。
- ・Rは、標準値を示す。
- ・破線で示す形状にすることもできる。
- ・ゴム輪受口は、取付け管形とする。
- ・JIS K 6741 JSWAS K-1

・本管と取付管の接続には可とう性を有する材料を使用すること(8章参照)。

副管用90°支管寸法 (略号 VS)



寸法表

(単位: mm)

呼び径	Z	t (最小)	A (最小)	B (最大)	R
150-100	120	4	250	5.1	82.5
200-125					
200-150	140		6.5	108.0	
250-125	120				
250-150	140		7.8	133.5	
250-200	160				
300-150	140		9.2	159.0	
300-200	160				
350-150	140		10.5	185.0	
350-200	160				
400-200	160		11.8	210.0	
400-250	200				
450-200	160		13.2	235.0	
450-250	200				
500-250	220		350	14.6	260.0
500-300					
600-300	350	17.8		315.0	

備考

- ・呼び径は、「本管呼び径-取付管呼び径」である。
- ・Zの許容差は±10mmとする。
- ・Rは、標準値を示す。
- ・直管部の寸法は本標準図3-1直管部寸法(共通)による。
- ・破線で示す形状にすることもできる。
- ・JIS K 6741 JSWAS K-1

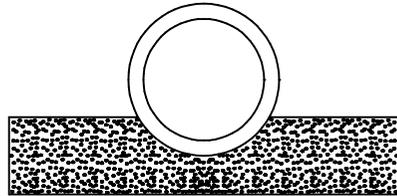
管の種類と基礎

管種		地盤		
		硬質土及普通土	軟弱土	極軟弱土
剛性管	鉄筋コンクリート管	砂基礎	砂基礎 砕石基礎 はしご胴木基礎 コンクリート基礎	はしご胴木基礎 鳥居基礎 鉄筋コンクリート基礎
	レジンコンクリート管	コンクリート基礎 砕石基礎		
可とう性管	硬質塩化ビニル管	砂基礎	砂基礎 ベットシート基礎 ソイルセメント基礎	ベットシート基礎 ソイルセメント基礎 はしご胴木基礎 布基礎
	ポリエチレン管			
	強化プラスチック複合管	砂基礎 砕石基礎		
	ダクタイル鋳鉄管	砂基礎	砂基礎	砂基礎 はしご胴木基礎 布基礎
	鋼管			

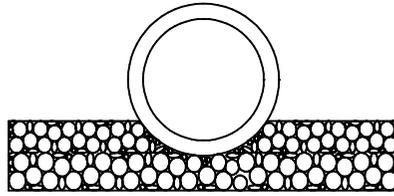
地盤の区分例

地盤	代表的な土質
硬質土	硬質粘土、れき混り土及びれき混り砂
普通土	砂、ローム及び砂質粘土
軟弱土	シルト及び有機質土
極軟弱土	非常に緩い、シルト及び有機質土

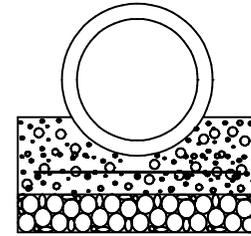
砂基礎



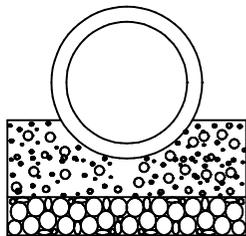
碎石基礎



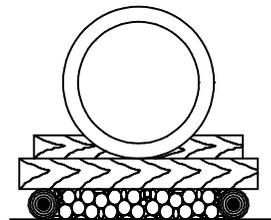
鉄筋コンクリート基礎



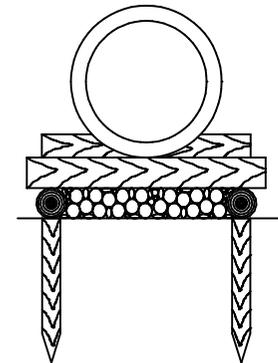
コンクリート基礎



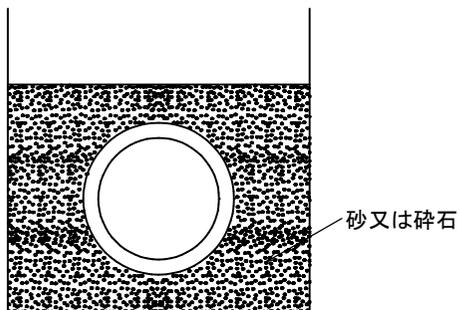
はしご胴木基礎



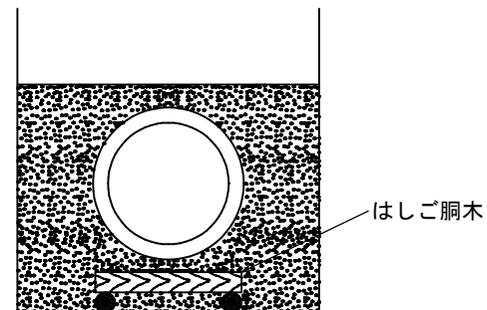
鳥居基礎



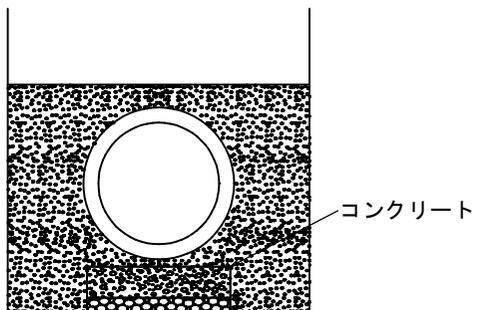
砂基礎



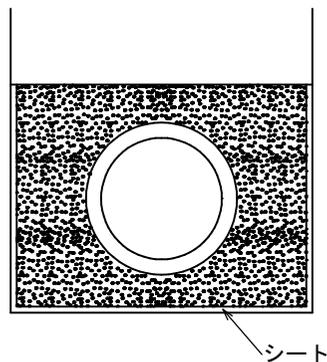
はしご胴木基礎



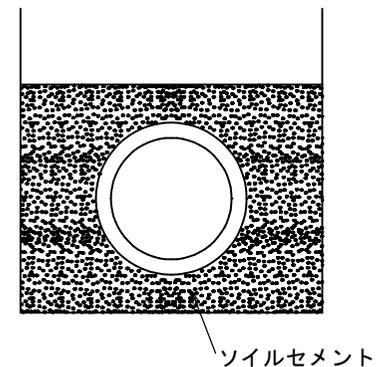
布基礎



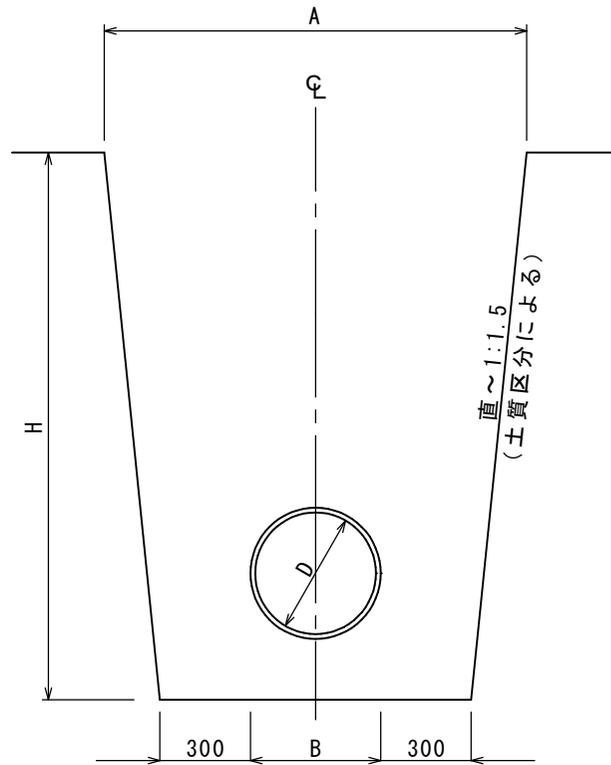
ベッドシート基礎



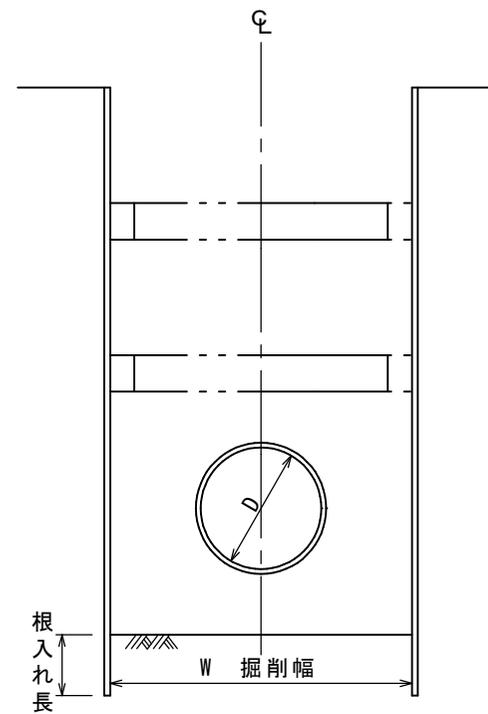
ソイルセメント基礎



掘削
素堀の場合



掘削
軽量鋼矢板及び鋼矢板等使用

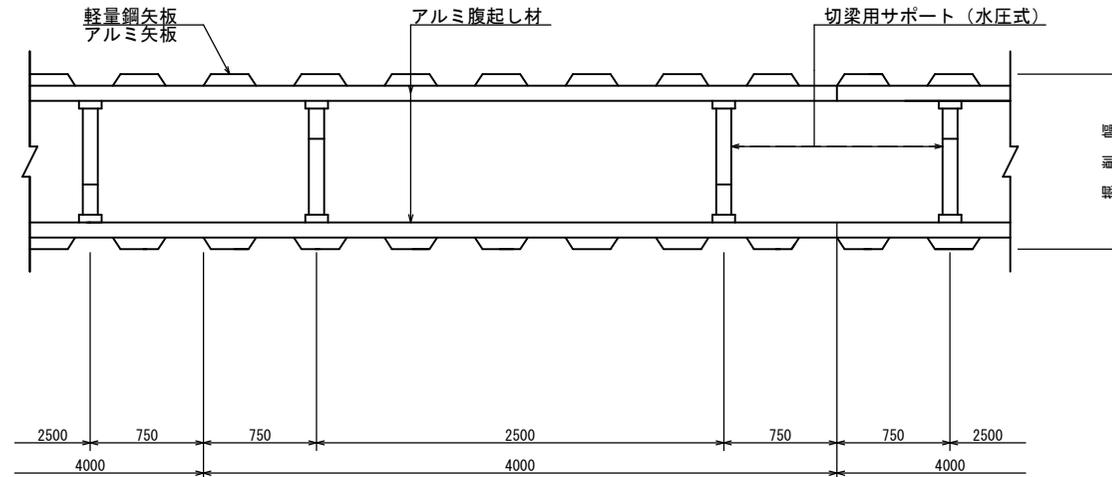


備考

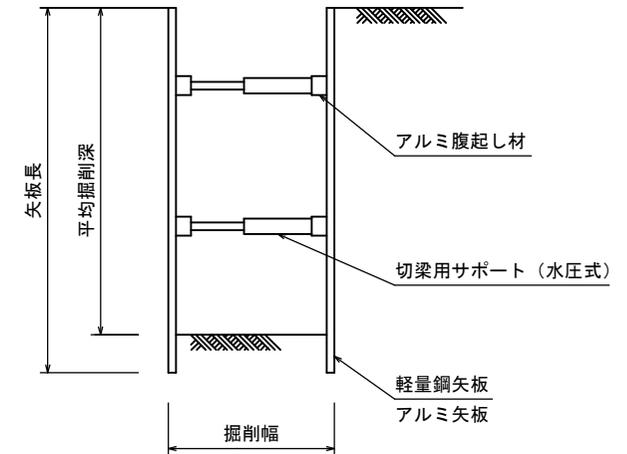
- ・掘削及び埋戻しは、機械施工を原則とする。
- ・埋戻しは、一層厚20cm毎の転圧とする。
- ・埋戻しの管頂30cmまでは、人力転圧を併用する。
- ・土質条件と掘削深によって適切な法勾配を確保すること。

* 上記作業について各道路管理者と協議し施工方法を決定すること。

平面図

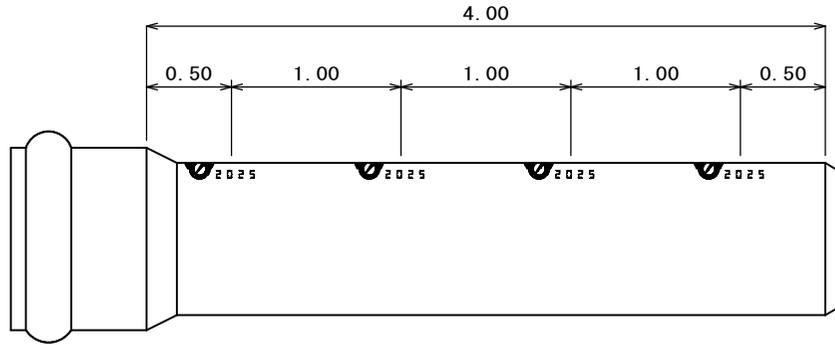


断面図



平均掘削深 (m)	段数	矢板長
$1.50 \leq h \leq 1.80$	1	2.0m
$1.80 < h \leq 2.00$	1	2.5m
$2.00 < h \leq 2.30$	2	2.5m
$2.30 < h \leq 2.80$	2	3.0m
$2.80 < h \leq 3.00$	2	3.5m
$3.00 < h \leq 3.30$	2	3.5m
$3.30 < h \leq 3.50$	2	4.0m
$3.50 < h \leq 3.80$	3	4.0m

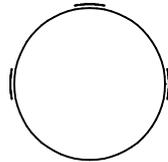
・矢板材料については、安全を確認できる材料を使用するものとする。



【テンプレート記載方法】

D ≤ φ500mm 上図の通り。（管頂部に記載する。）
 D > φ500mm 管頂部に上記の通り記載し、管の両側面にも同様に記載する。（下図参照）

●D > φ500mmの記載例



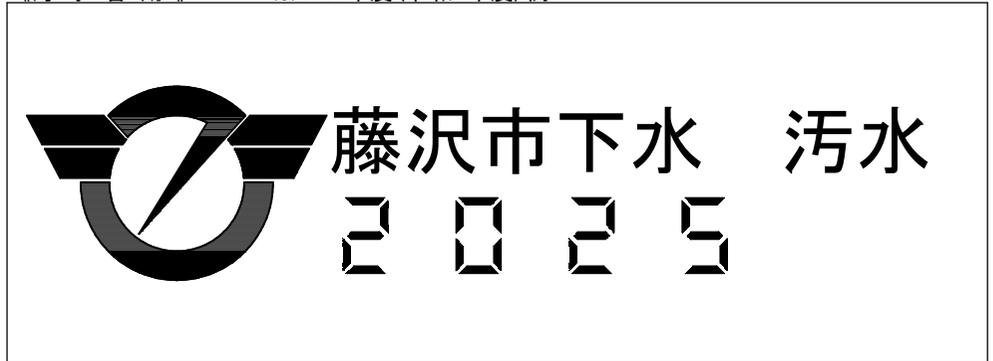
【テンプレート仕様】

単位：mm

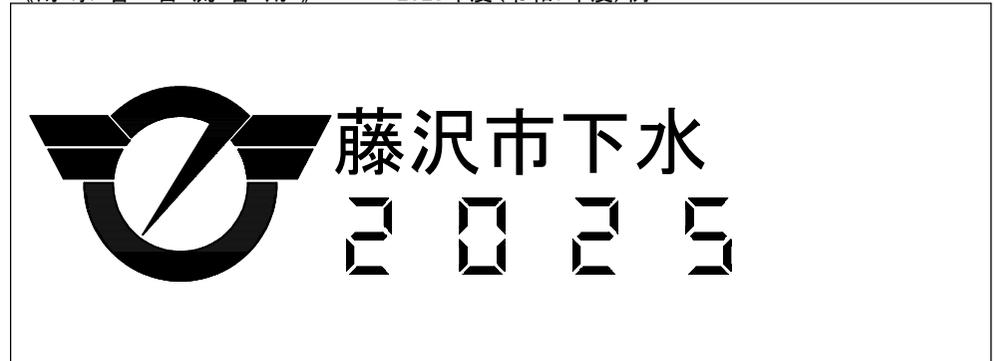
縦	55
横	240(汚水) 185(雨水・合流)
フォント	ゴシック太字
文字サイズ	20
文字間隔	5
市章サイズ	横70×縦50 藤沢市例規記載の寸法



《汚水管用》 ※2025年度(令和7年度)例



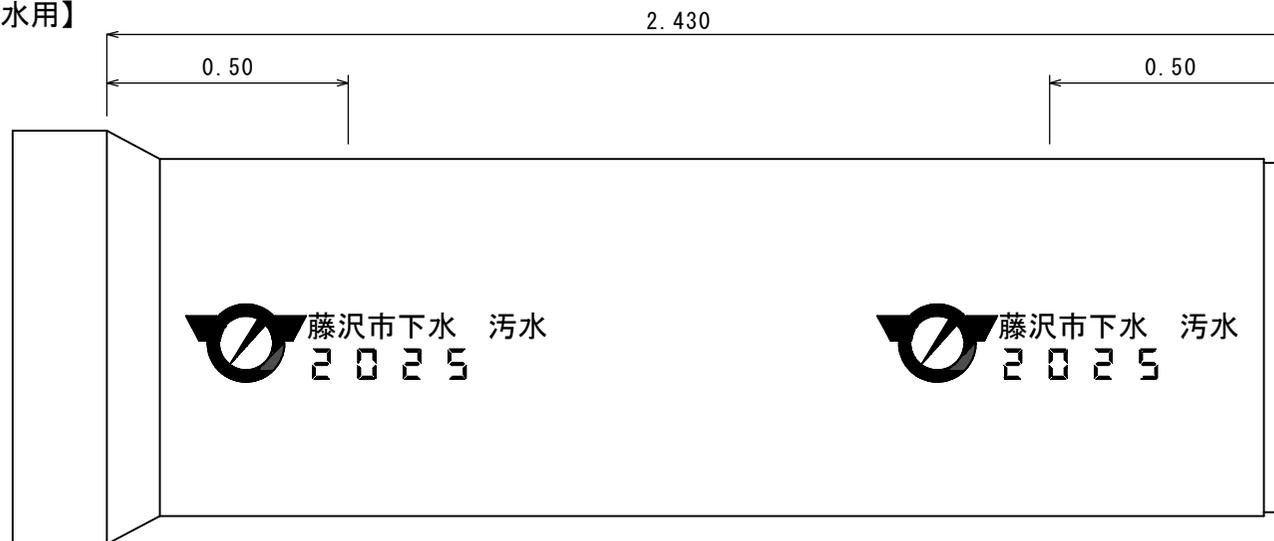
《雨水管・合流管用》 2025年度(令和7年度)例



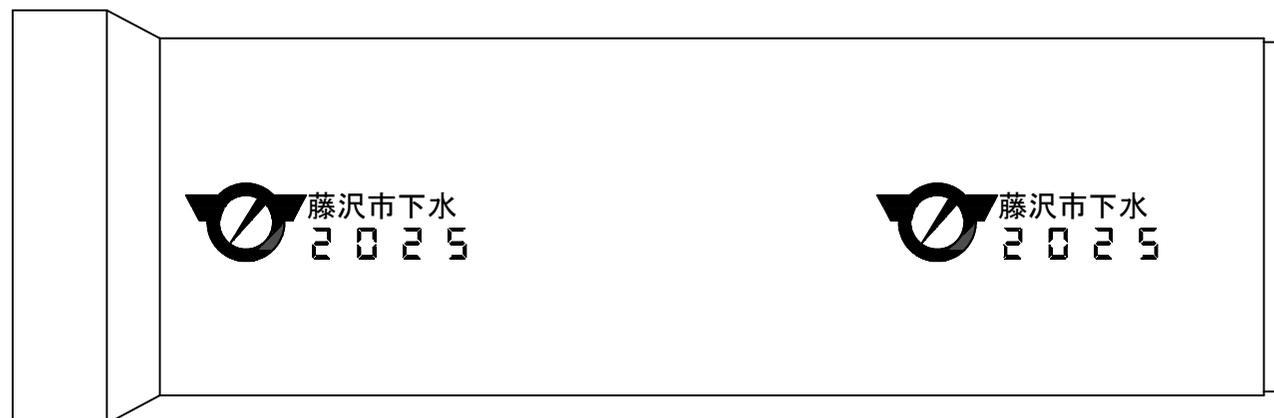
備考

- ・文字の記載はテンプレートを用いること。
- ・文字色は茶色とする。
- ・テンプレート仕様は上表を標準とするが、文字についてはカタカナ表記も可。
- ・記載位置は上図のとおり。

【汚水用】



【雨水・合流用】



・テンプレート記載方法, 仕様については塩ビ管と同じ。

マンホールの管きょ径別最大間隔

現場条件等を考慮し下表によりがたい場合は、別途下水道管理者と協議すること。

管きょ径 (mm)	600以下	1,000以下	1,500以下	1,650以上
最大間隔 (m)	※75	100	150	200

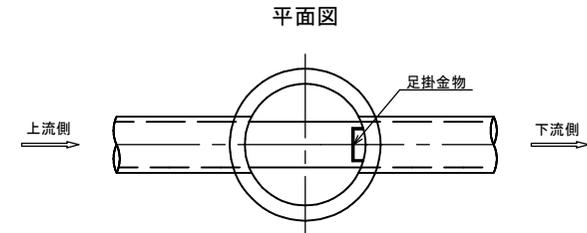
※ 小口径管(φ600mm以下)については、最大間隔80mまで可能。

マンホールの接続管径及び形状別用途

呼び方	形状寸法	接続管径(単位mm)		用途
		中間点	会合点	
円形0号	内径75cm 円形	400	250	小規模な排水又は起点 他の埋設物の制約等から1号マンホールが 設置できない場合
円形1号	内径90cm 円形	500	400	管の起点及び内径500mm以下の管の中間点 並びに内径400mmまでの管の会合点
円形2号	内径120cm 円形	800	500	内径800mm以下の管の中間点及び 内径500mm以下の管の会合点
円形3号	内径150cm 円形	1100	700	内径1,100mm以下の管の中間点及び 内径700mm以下の管の会合点
円形4号	内径180cm 円形	1200	800	内径1,200mm以下の管の中間点及び 内径800mm以下の管の会合点
円形5号	内径220cm 円形	1500	1100	内径1,500mm以下の管の中間点及び 内径1,100mm以下の管の会合点

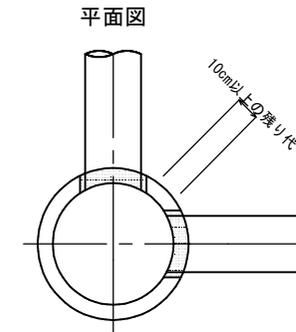
足掛金物の位置

※ 下流側が小口径管(φ600mm以下)の場合、
足掛金物は原則下流側へ設置。

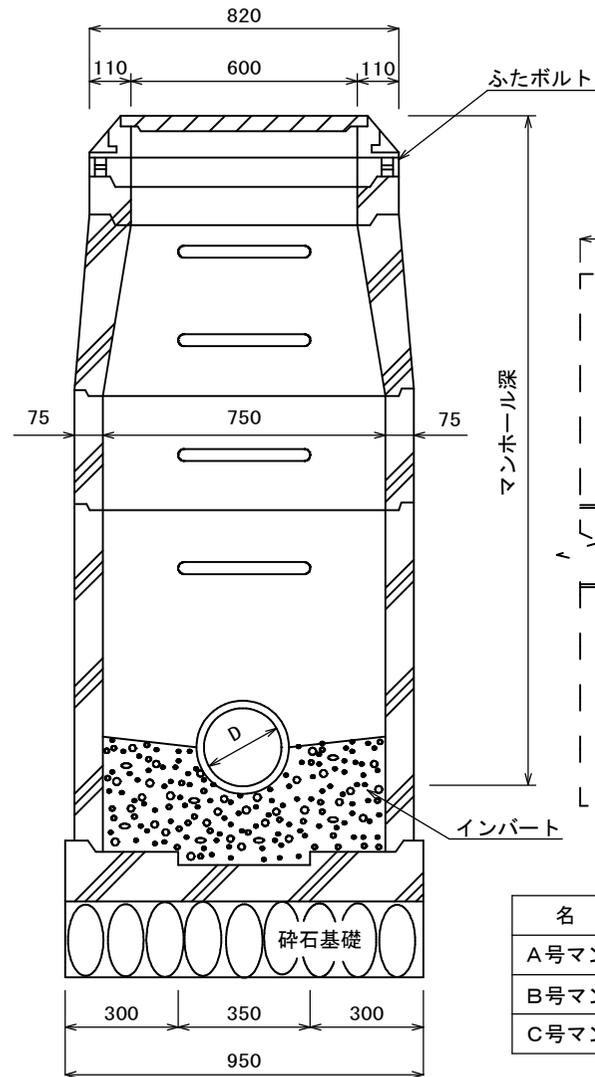


削孔間隔

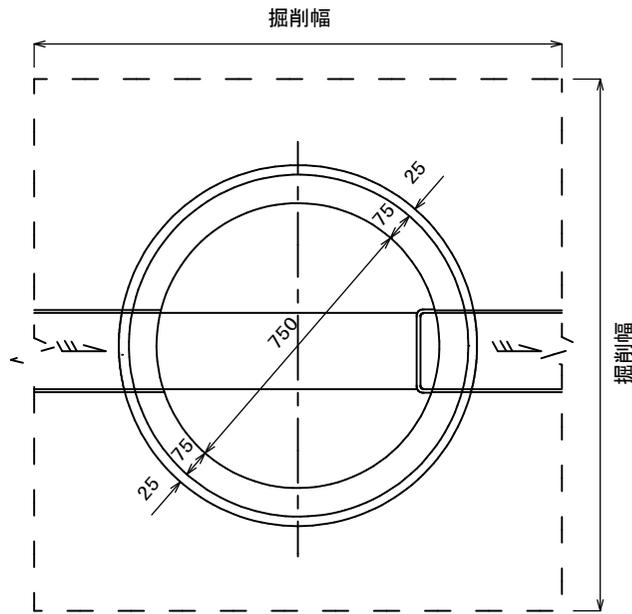
※ 削孔間隔は10cm以上の残り代を確保すること。
10cm以下になる場合は別途防護コンクリートをする。



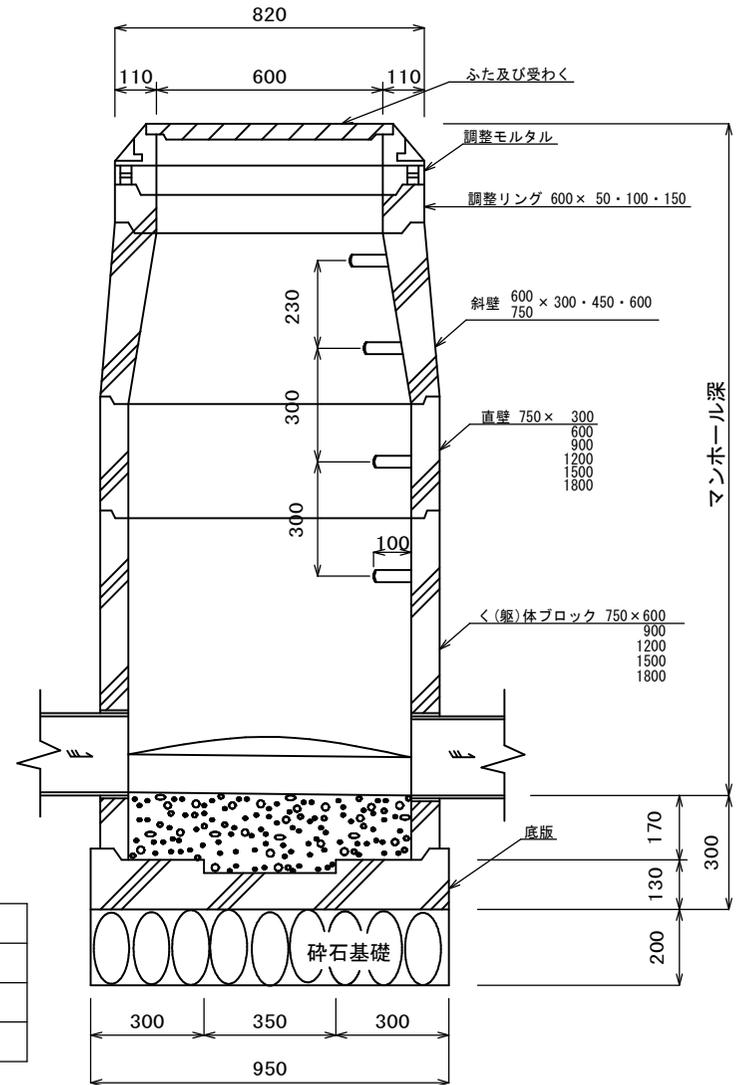
横断面図



平面図

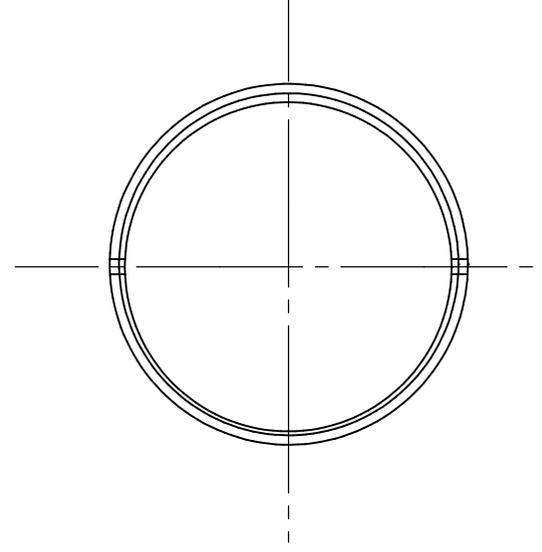
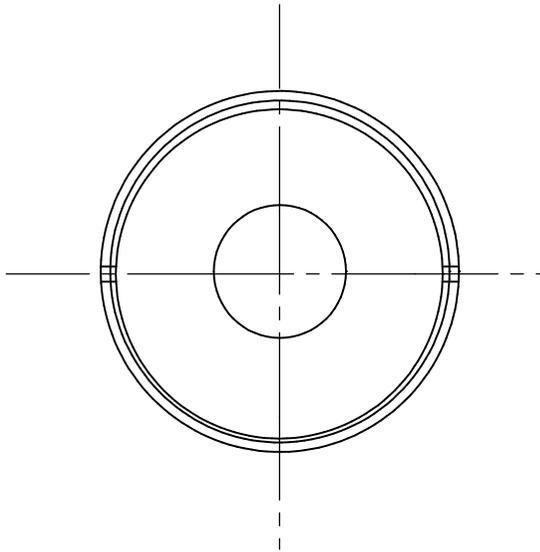
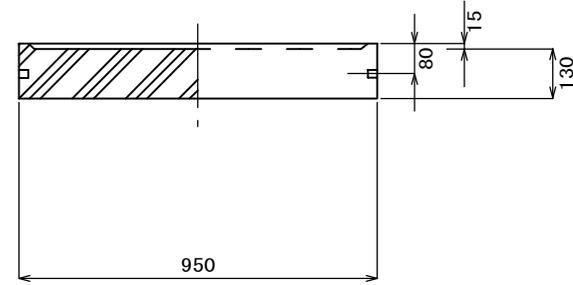
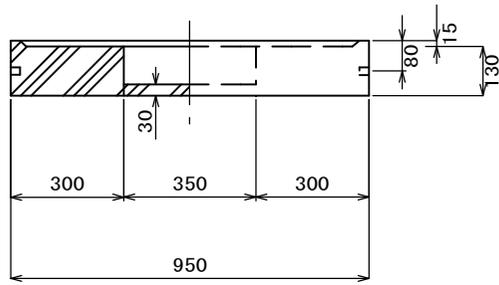


縦断面図

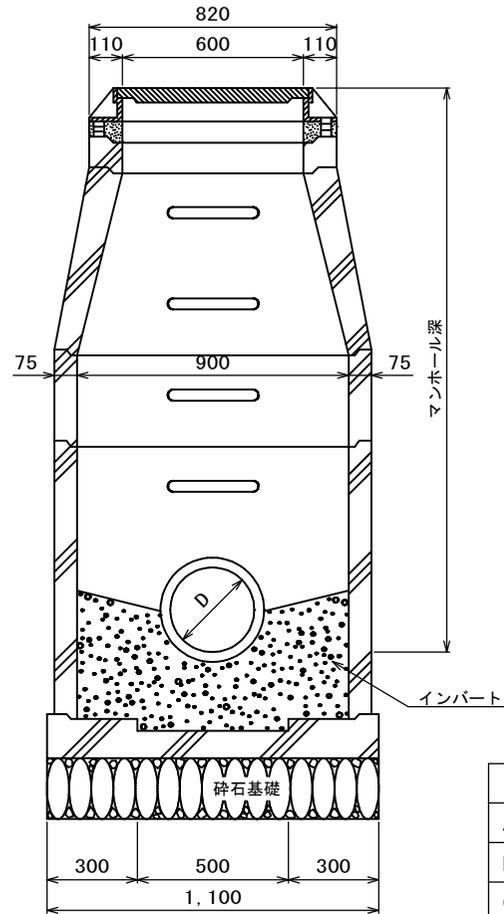


名称	種別	底部形状	上下流管底差
A号マンホール	合流・雨水	インパート	< 60cm
B号マンホール	雨水	砂溜り 20cm	60cm ~ 99cm
C号マンホール	雨水	砂溜り 50cm	100cm ~ 200cm

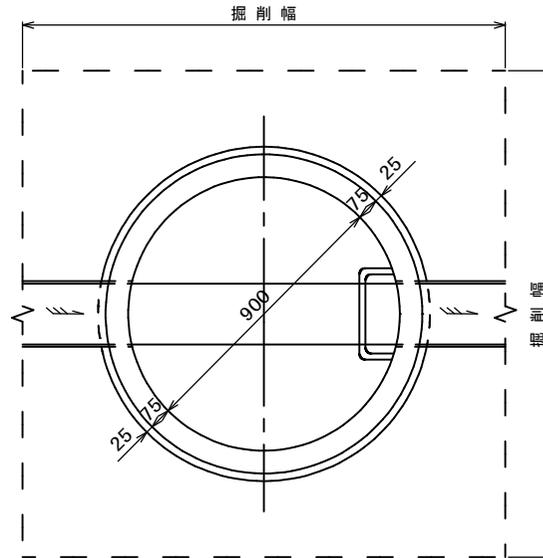
- ・ JSWAS A-11
- ・ 基礎に関しては、支持地盤が明らかに適用不能と判断される場合は、基礎種別・厚さ等について別途検討するものとする。
- ・ マンホールと管きよの接続部にはマンホール用可とう性継手を設置すること。詳細は【8章】を参照すること。



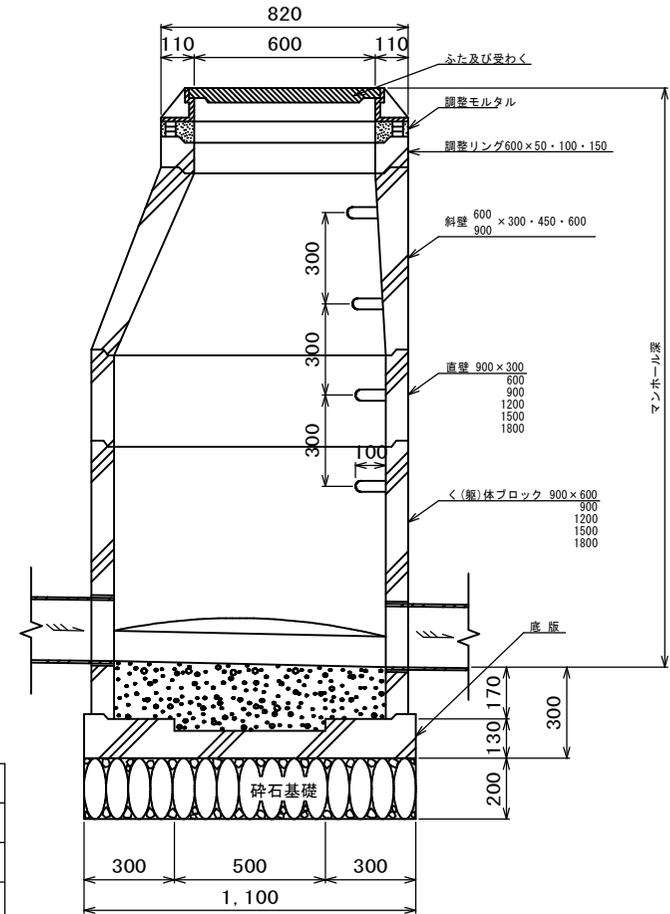
横断面図



平面図

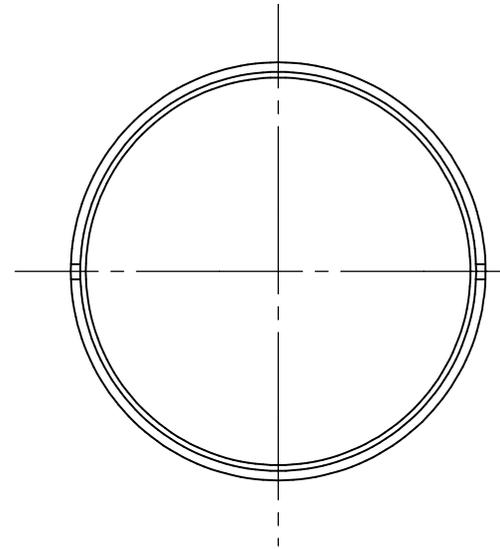
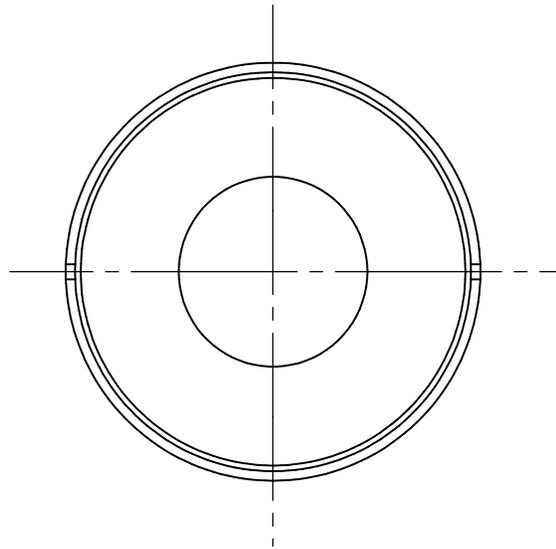
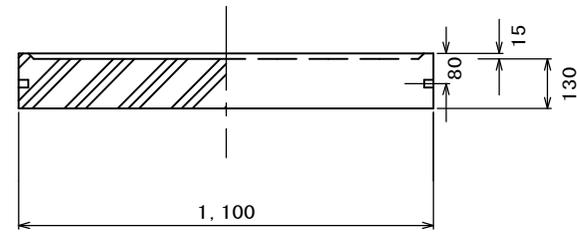
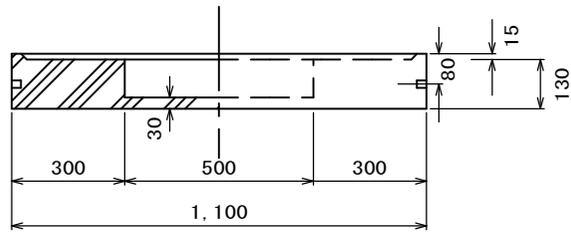


縦断面図

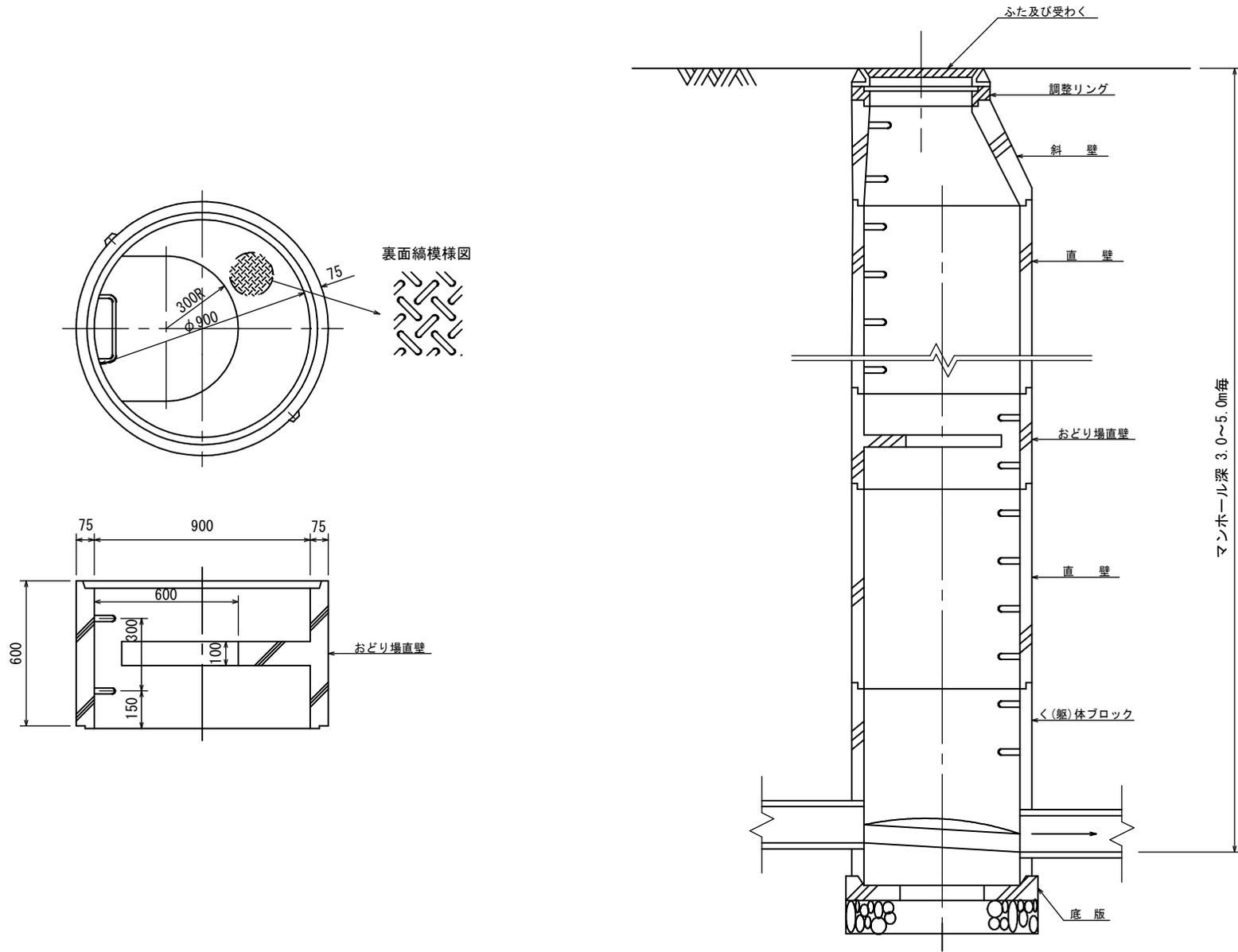


名称	種別	底部形状	上下流管底差
A号マンホール	合流・雨水	インバート	< 60cm
B号マンホール	雨水	砂溜り 20cm	60cm ~ 99cm
C号マンホール	雨水	砂溜り 50cm	100cm ~ 200cm

・JSWAS A-11
 ・マンホールと管きよの接続部にはマンホール用可とう性継手を設置すること。詳細は【8章】を参照すること。

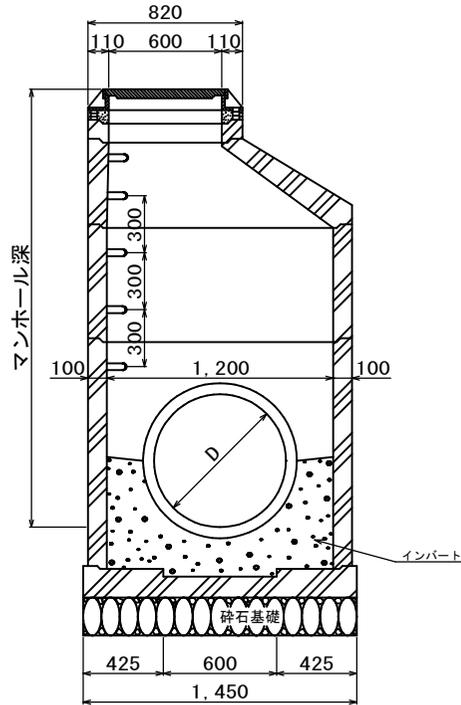


・JSWAS A-11

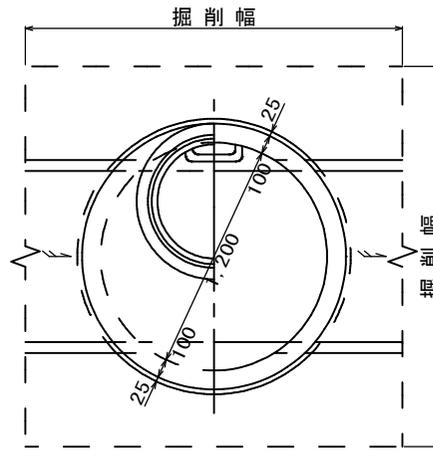


- ・ 5mを超えるマンホールの場合 3～5m毎に中間スラブを設ける。
- ・ JSWAS A-11

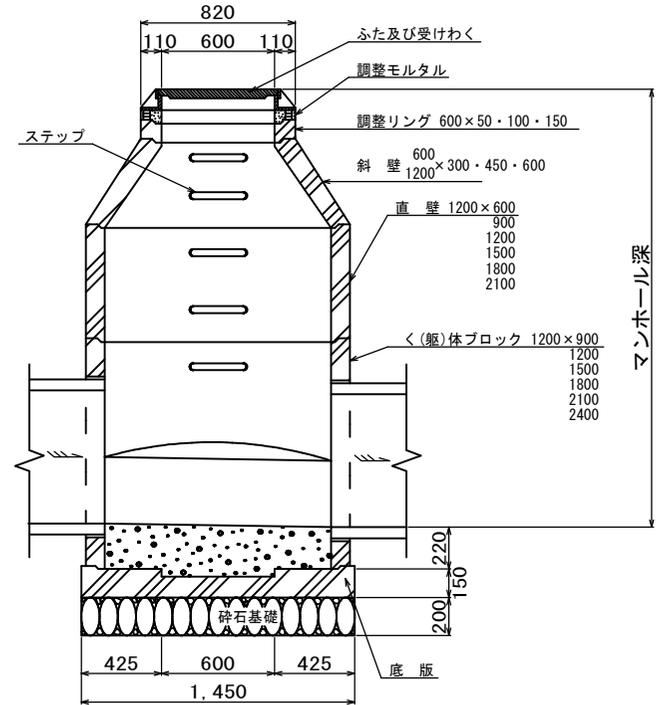
横断面図



平面図



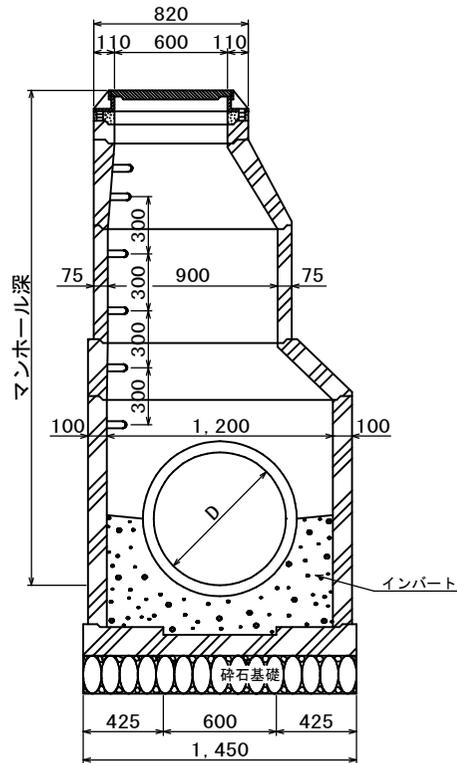
縦断面図



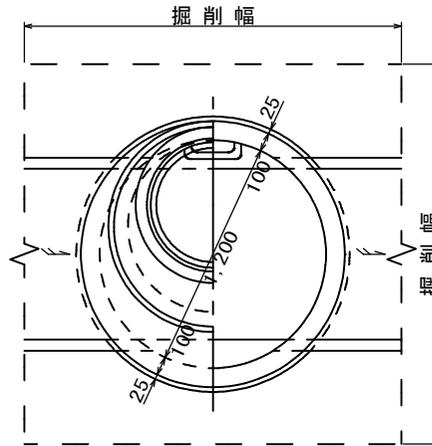
名称	種別	底部形状	上下流管底差
A号マンホール	合流・雨水	インバート	< 60cm
B号マンホール	雨水	砂溜り20cm	60cm～ 99cm
C号マンホール	雨水	砂溜り50cm	100cm～200cm

- ・流出管径600mm以下の場合の足掛金物の位置は、流出管上にくるものとする。
- ・JSWAS A-11
- ・マンホールと管きよの接続部にはマンホール用可とう性継手を設置すること。詳細は【8章】を参照すること。

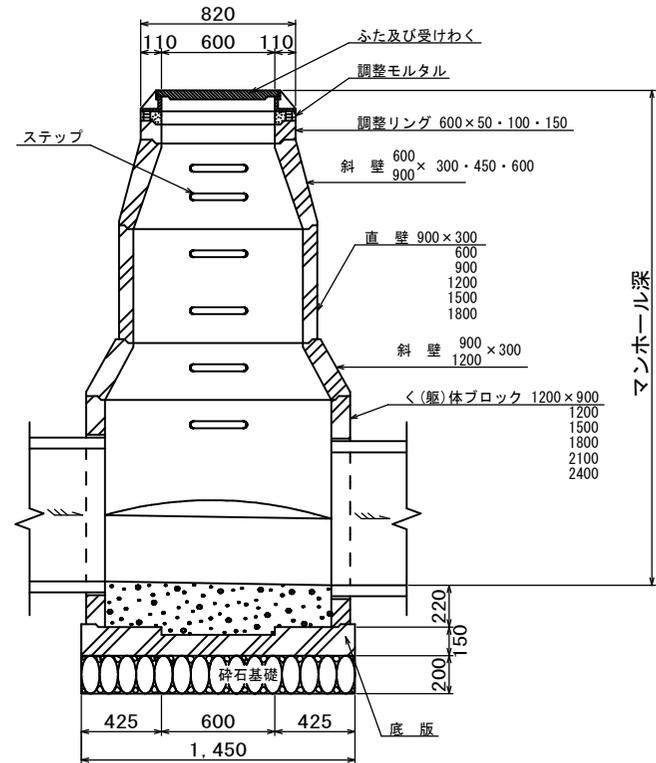
横断面図



平面図

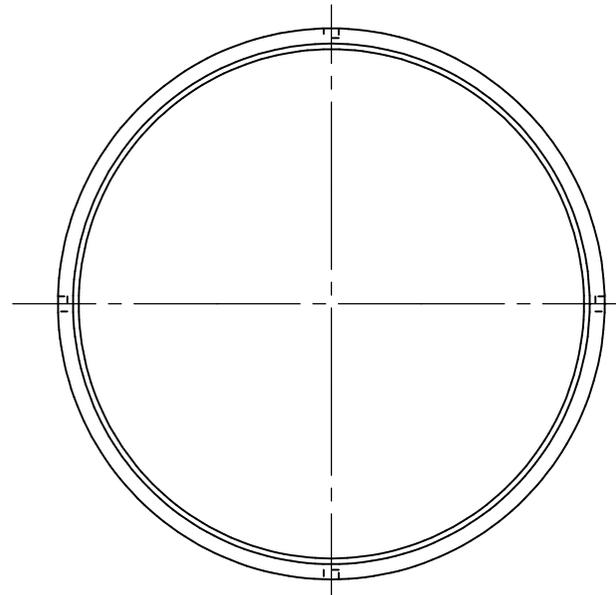
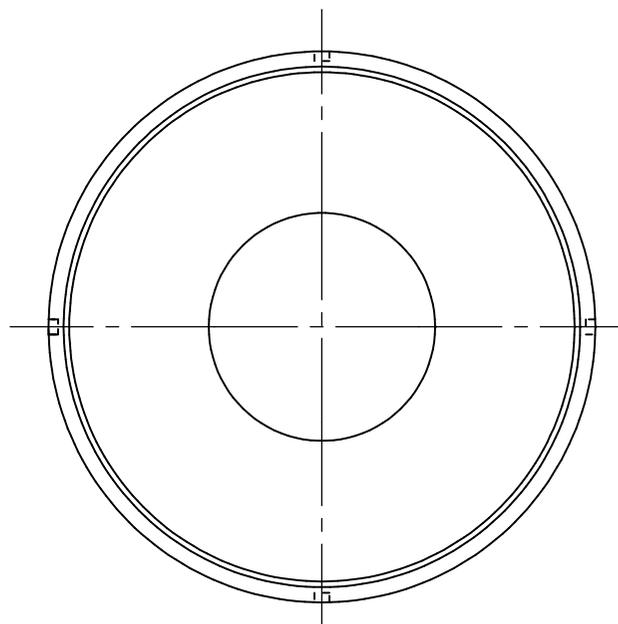
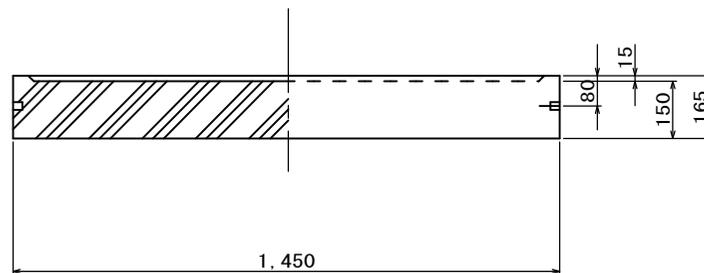
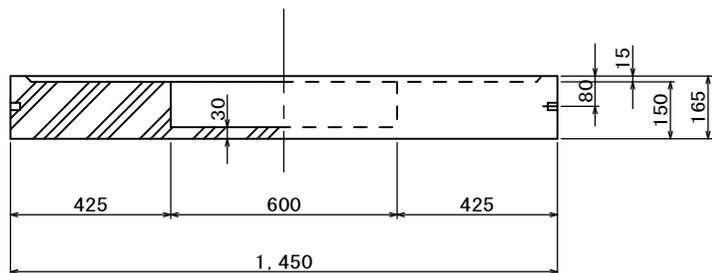


縦断面図

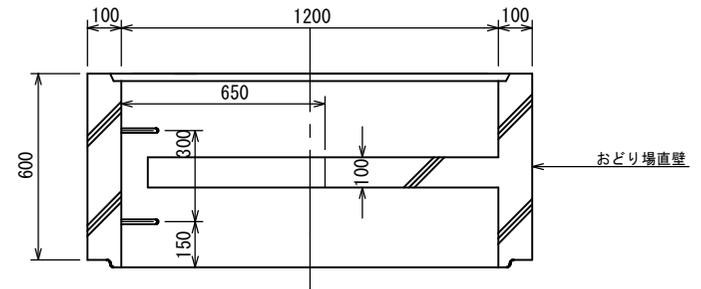
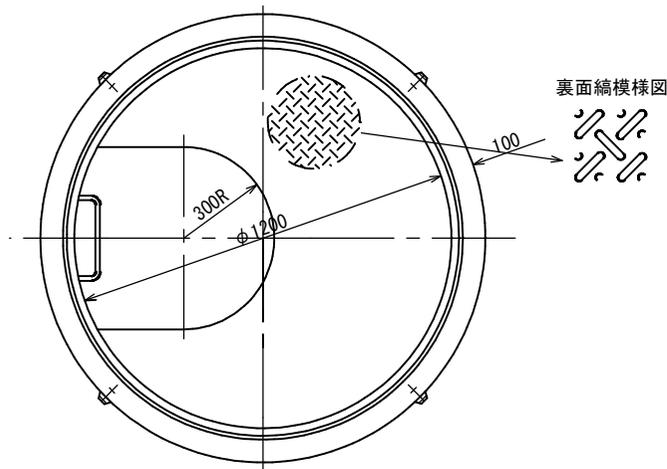


名称	種別	底部形状	上下流管底差
A号マンホール	合流・雨水	インパート	< 60cm
B号マンホール	雨水	砂溜り20cm	60cm～99cm
C号マンホール	雨水	砂溜り50cm	100cm～200cm

- ・流出管径600mm以下の場合は、足掛金物の位置は、流出管上にくるものとする。
- ・JSWAS A-11
- ・マンホールと管きよの接続部にはマンホール用可とう性継手を設置すること。詳細は【8章】を参照すること。

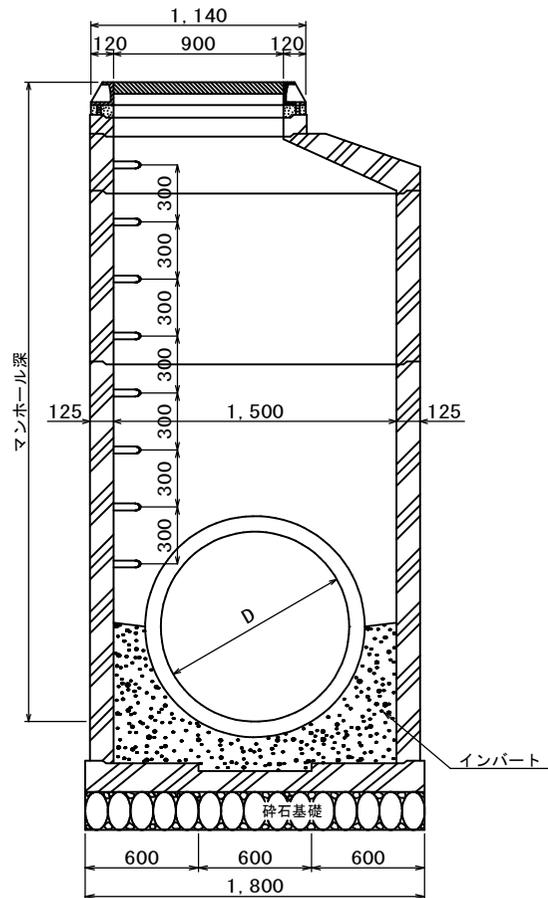


・ JSWAS A-11

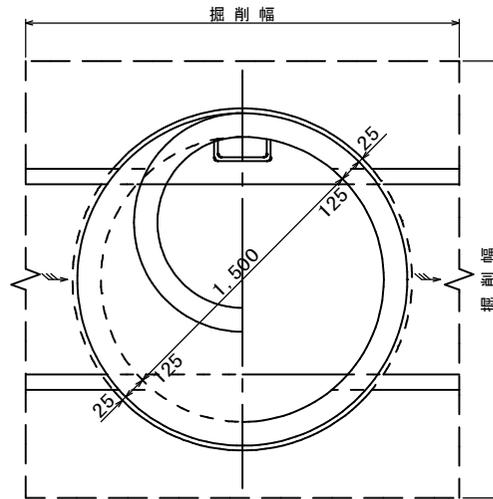


- ・ 5mを超えるマンホールの場合3~5m毎に中間スラブを設ける。
- ・ JSWAS A-11

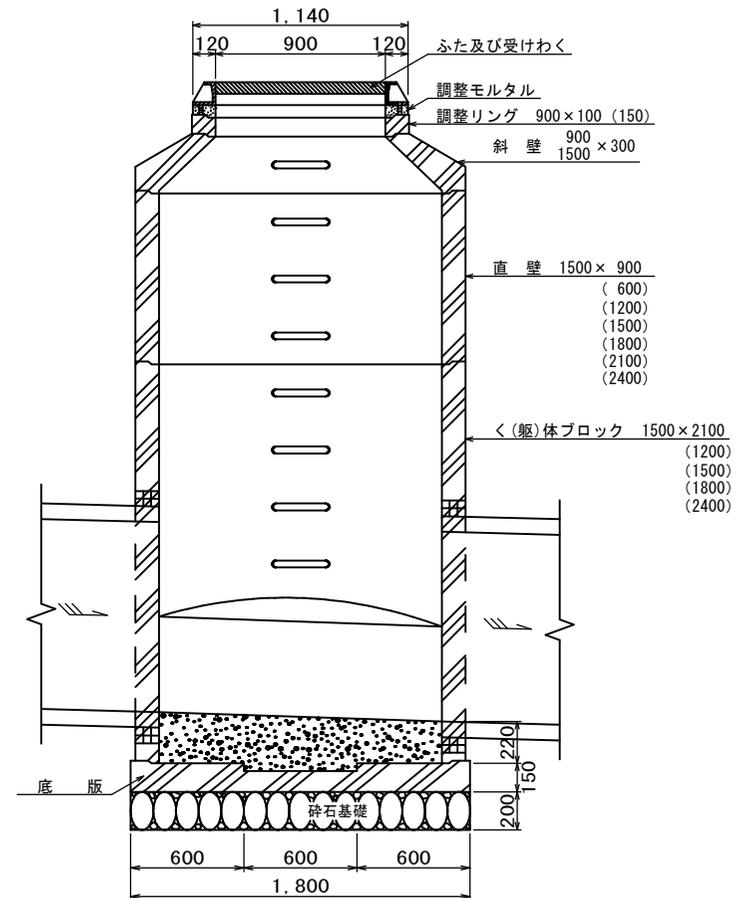
横断面図



平面図



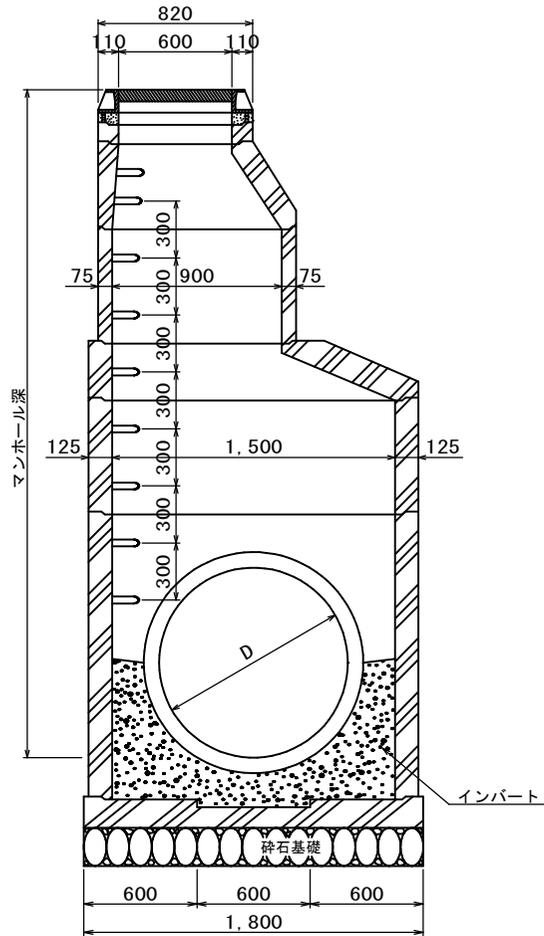
縦断面図



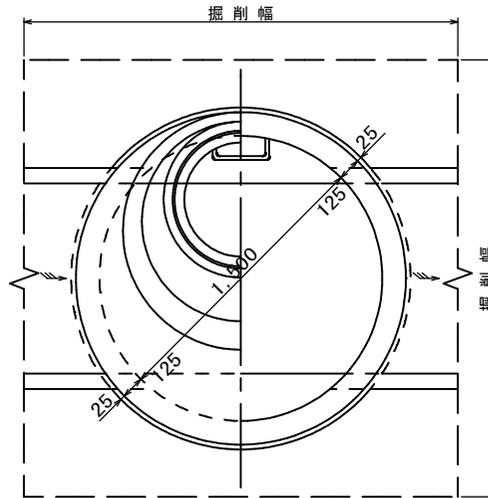
名称	種別	底部形状	上下流管底差
A号マンホール	合流・雨水	インバート	< 60cm
B号マンホール	雨水	砂溜り 20cm	60cm ~ 99cm
C号マンホール	雨水	砂溜り 50cm	100cm ~ 200cm

- ・流出管径600mm以下の場合の足掛金物の位置は、流出管上にくるものとする。
- ・JSWAS A-11
- ・親子蓋とする場合は下水道管理者と別途協議する。
- ・マンホールと管きよの接続部にはマンホール用可とう性継手を設置すること。詳細は【8章】を参照すること。

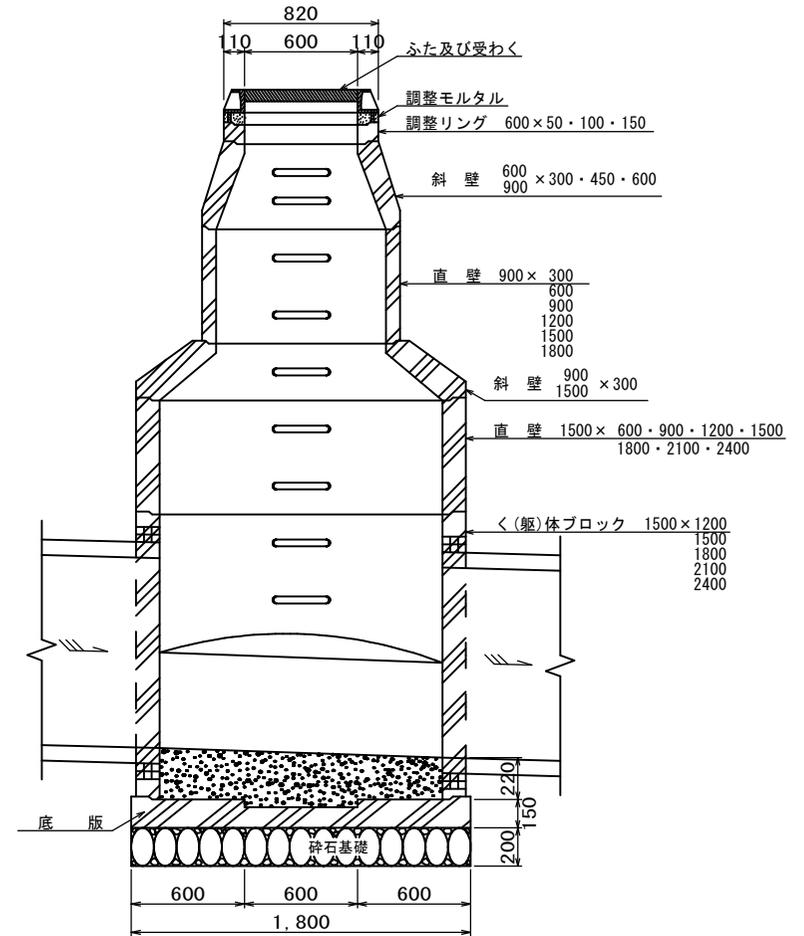
横断面図



平面図



縦断面図

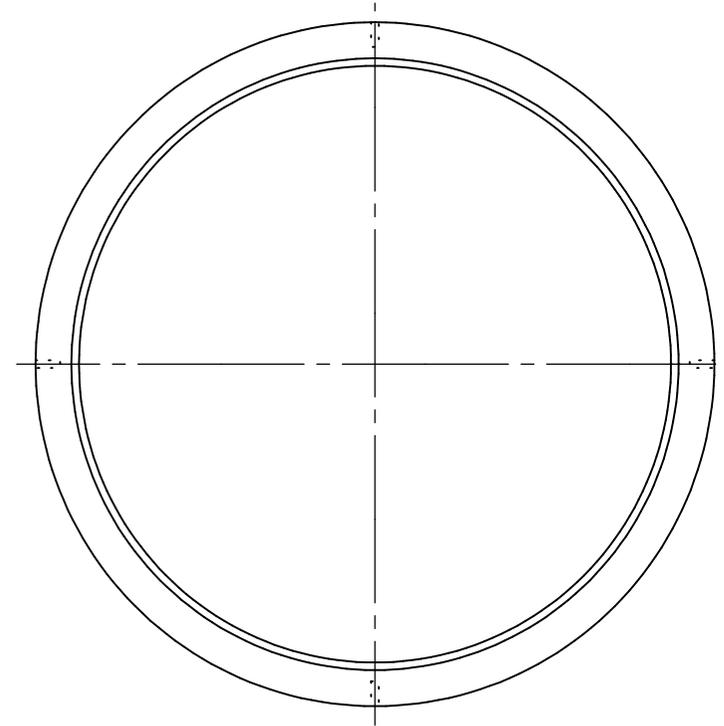
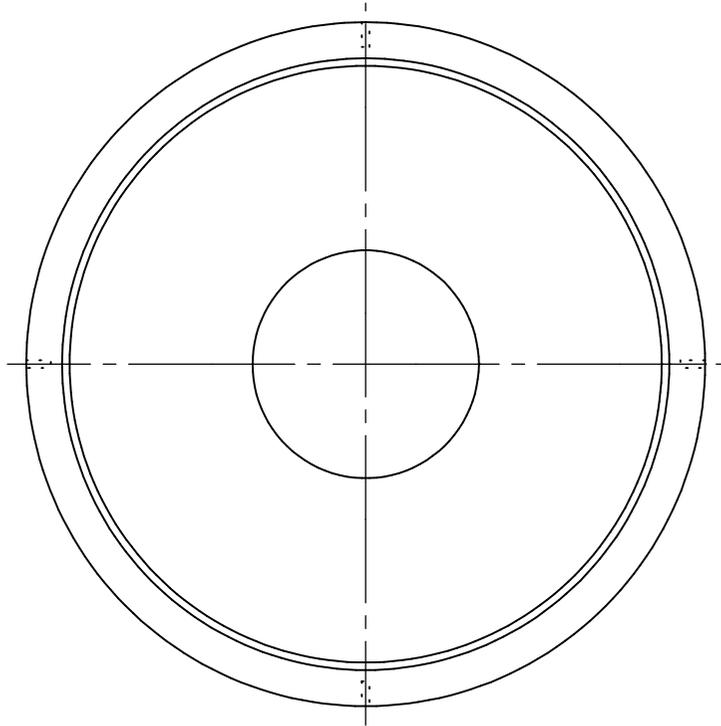
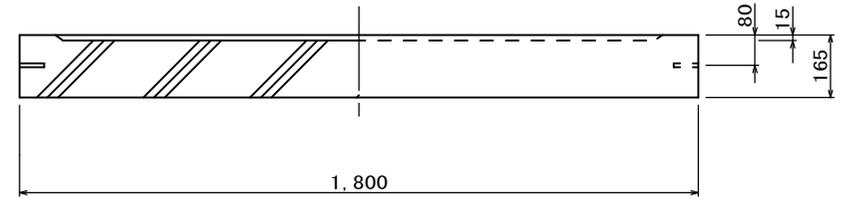
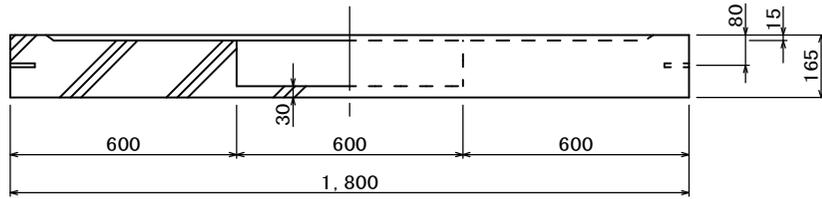


名称	種別	底部形状	上下流管底差
A号マンホール	合流・雨水	インバート	< 60cm
B号マンホール	雨水	砂溜り 20cm	60cm ~ 99cm
C号マンホール	雨水	砂溜り 50cm	100cm ~ 200cm

- ・流出管径600mm以下の場合は、足掛金物の位置は、流出管上にくるものとする。
- ・JSWAS A-11
- ・マンホールと管きよの接続部にはマンホール用可とう性継手を設置すること。詳細は【8章】を参照すること。

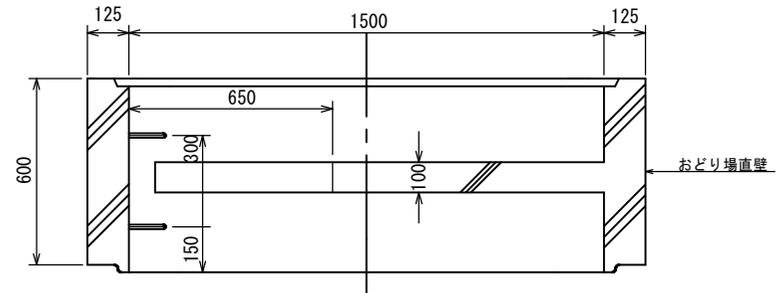
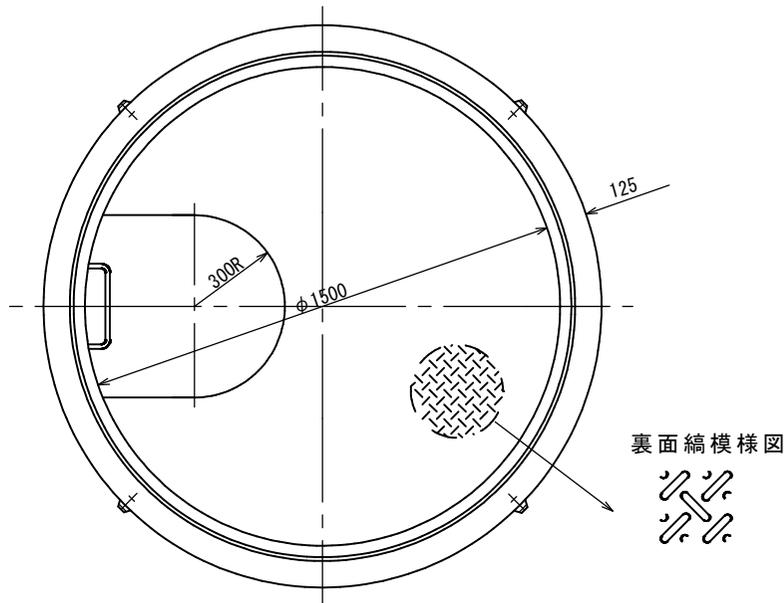
図名

組立式3号マンホール 底版構造図 (参考)



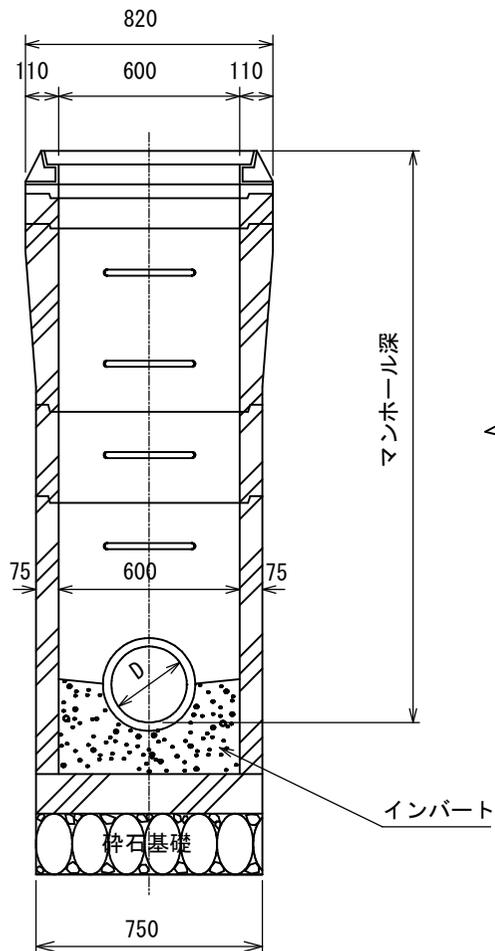
・JSWAS A-11

備考

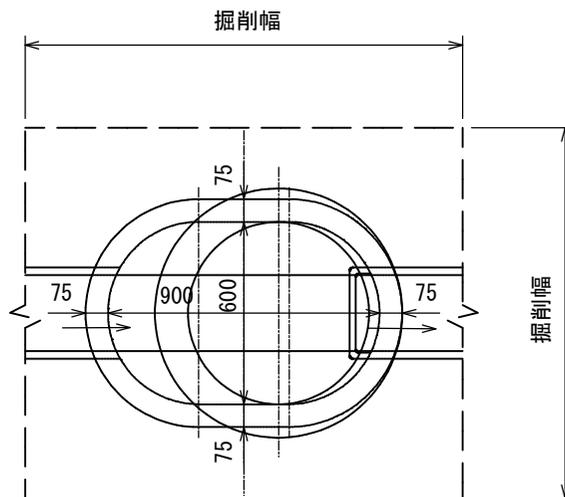


- ・ 5mを超えるマンホールの場合3~5m毎に中間スラブを設ける。
- ・ JSWAS A-11

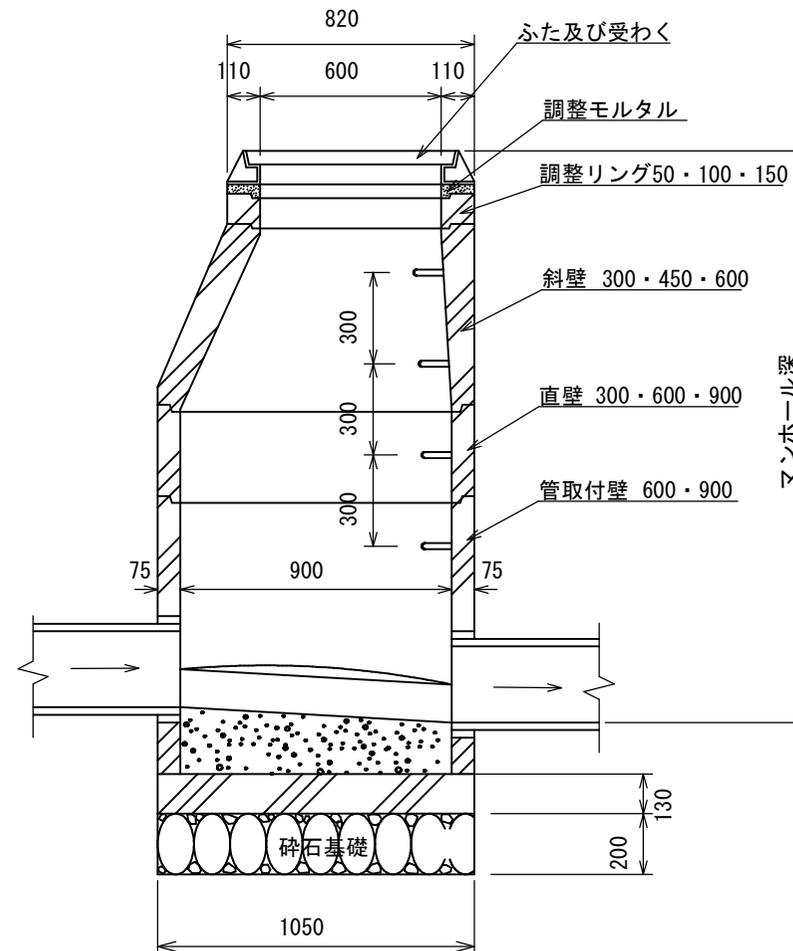
横断面図



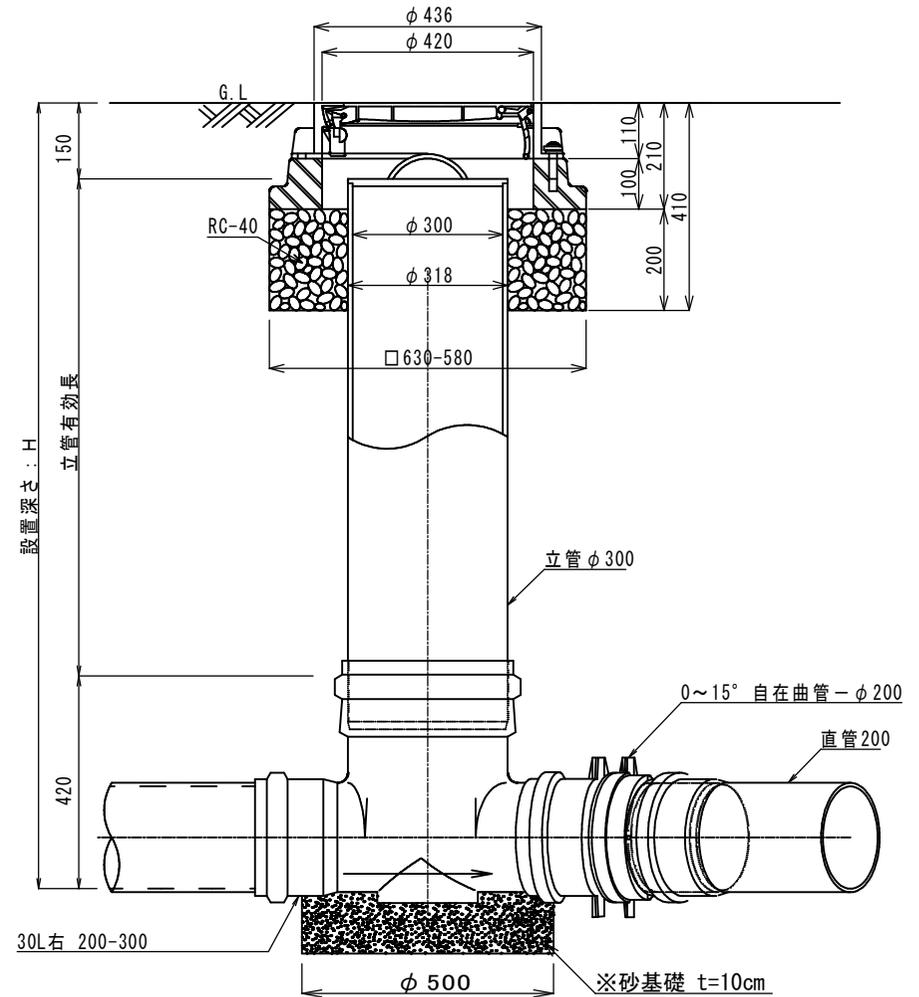
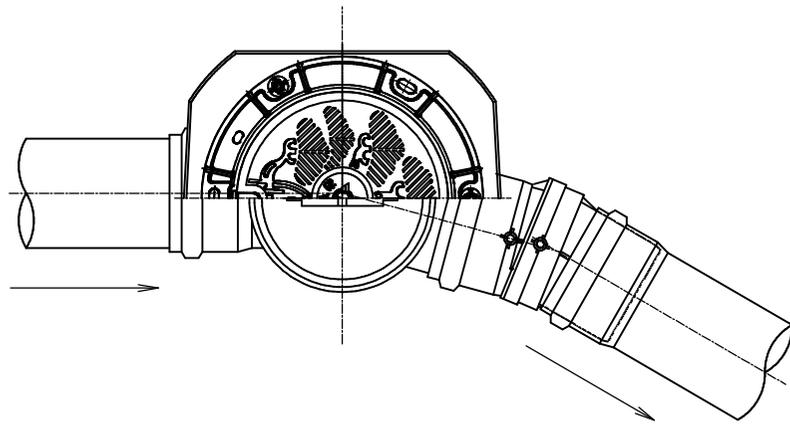
平面図



縦断面図

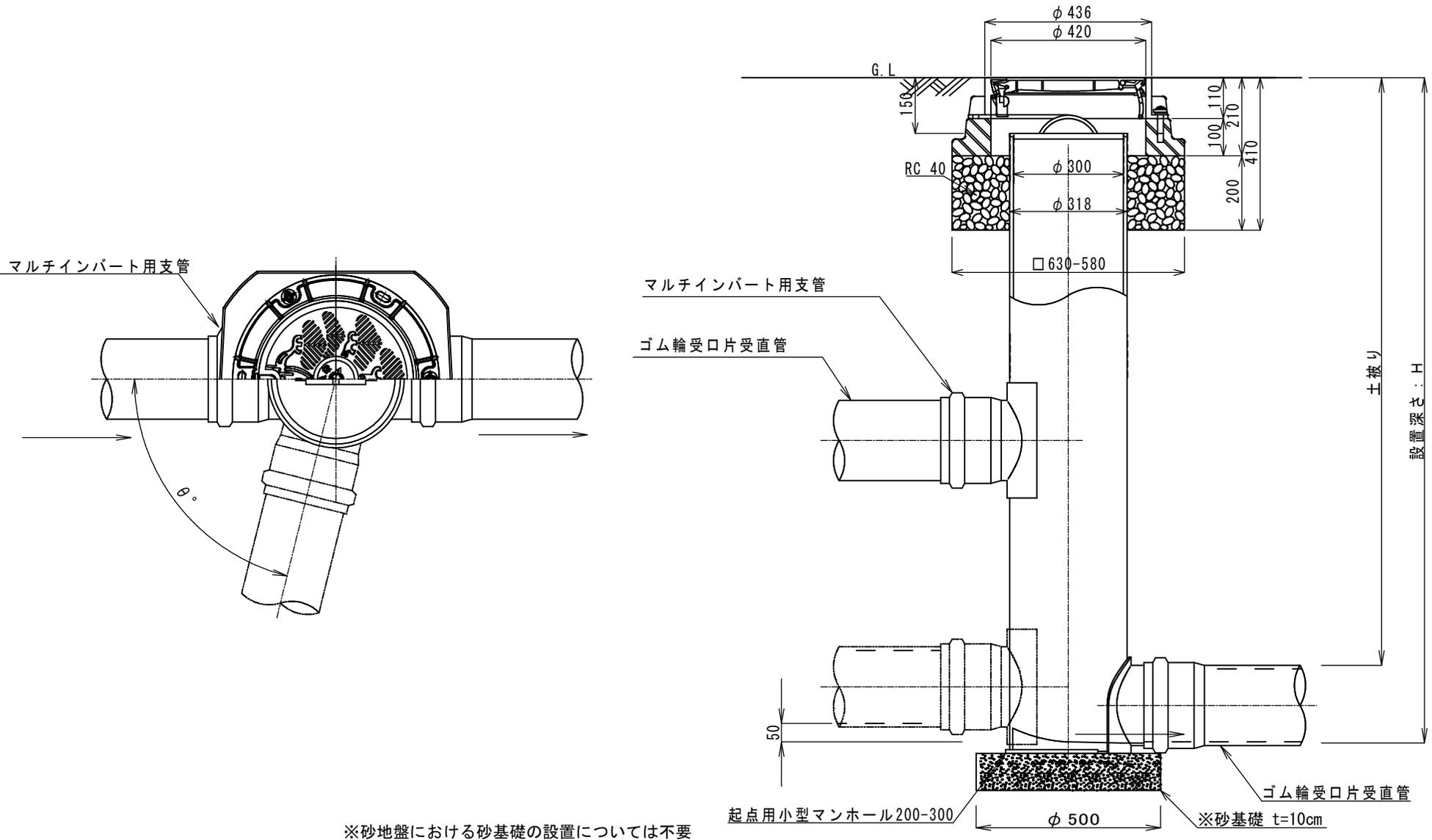


・マンホールと管きよの接続部にはマンホール用可とう性継手を設置すること。詳細は【8章】を参照すること。

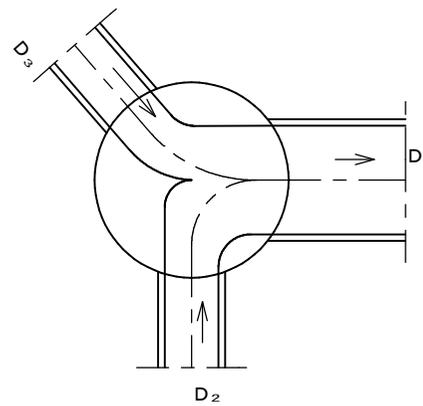
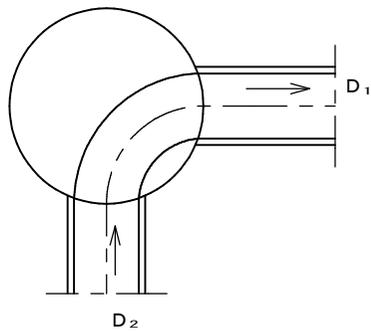
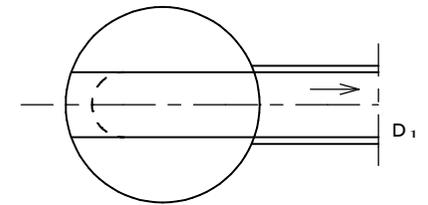
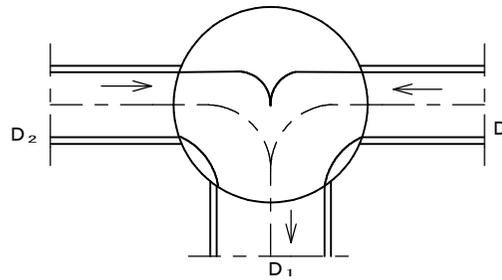
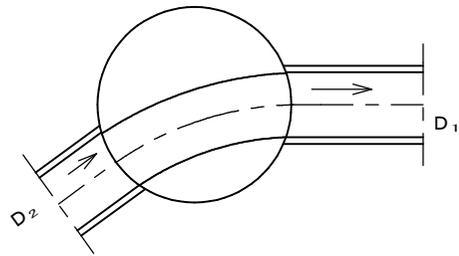
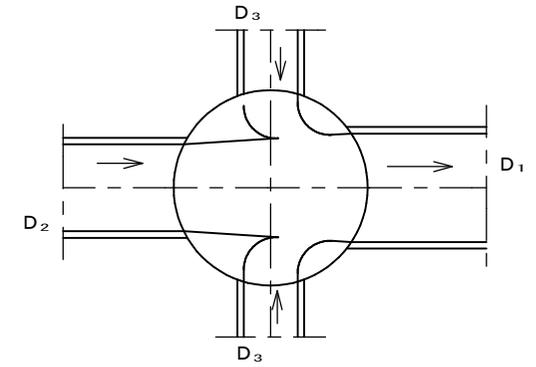
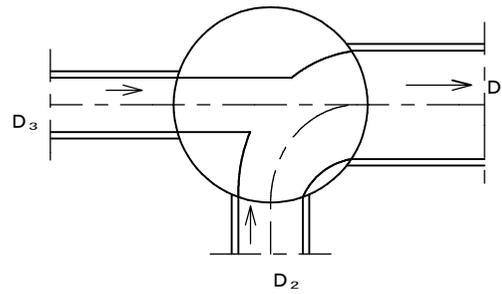
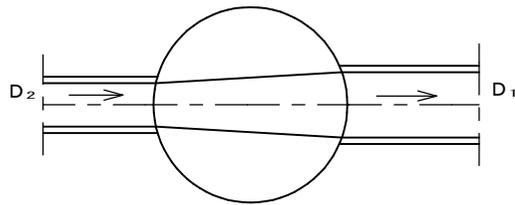


※砂地盤における砂基礎の設置については不要

- ・ JSWAS K-9
- ・ 小型マンホールを設置しようとする場合は、事前に下水道管理者と協議すること。
- ・ 鉄蓋碎石基礎設置面積 A = 0.29 m²/1箇所



- ・ JSWAS K-9
- ・ 小型マンホールを設置しようとする場合は、事前に下水道管理者と協議すること。
- ・ 鉄蓋碎石基礎設置面積 A = 0.29 m²/1箇所



【インバート高さ】

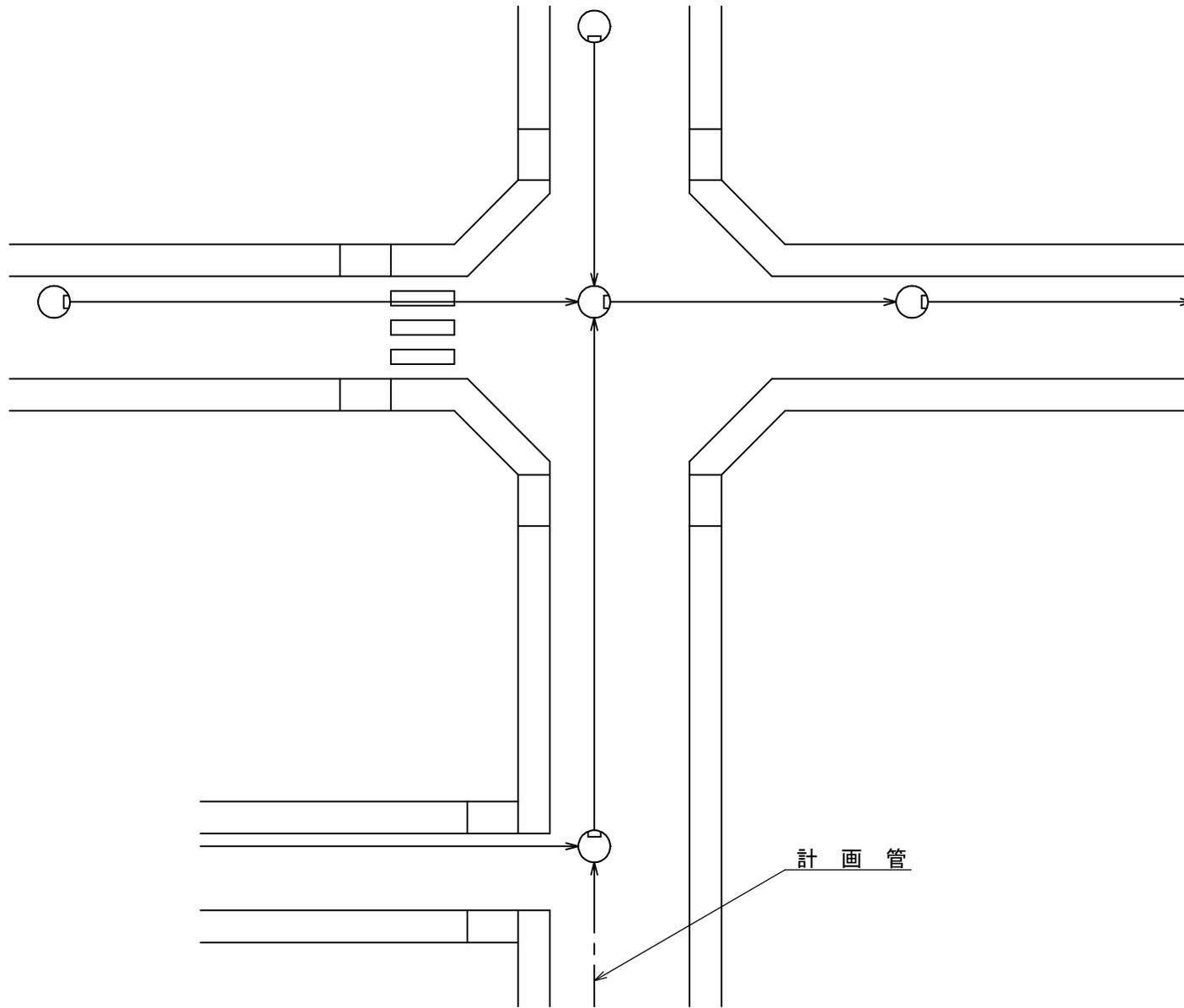
1. 合流管の場合

- ・ φ 600mmまで $h = \frac{D_1}{2}$
- ・ φ 700mm ~ φ 1200mm $h = \frac{D_1/2 + 30\text{cm}}{2}$
- ・ φ 1350mm以上 $h = 50\text{cm}$

2. 分流汚水管の場合

- ・ φ 700mm以上 $h = D_1 \times 0.6$

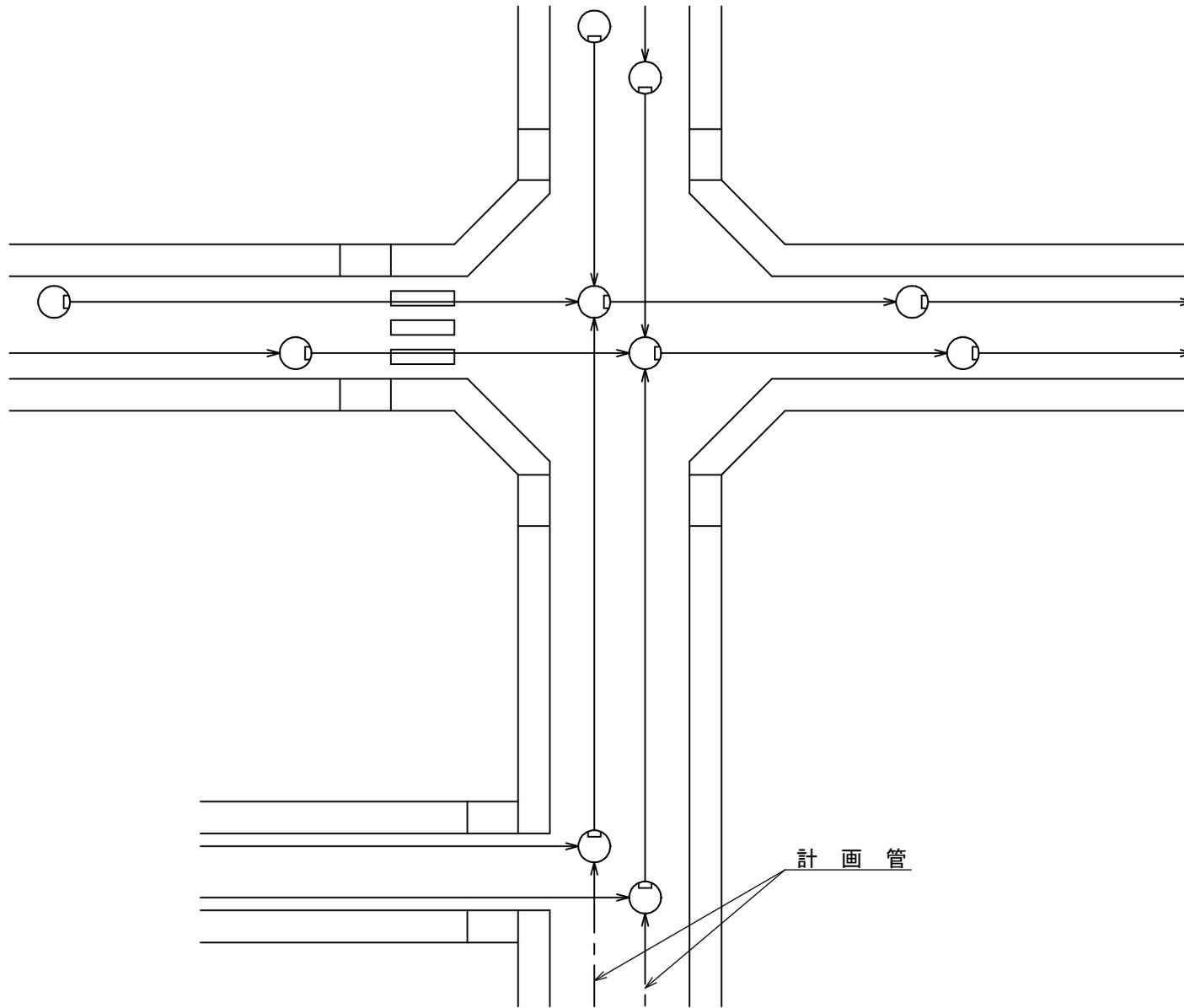
・ $D_1 > D_2 > D_3$



凡例

記号	名称
	足掛金物

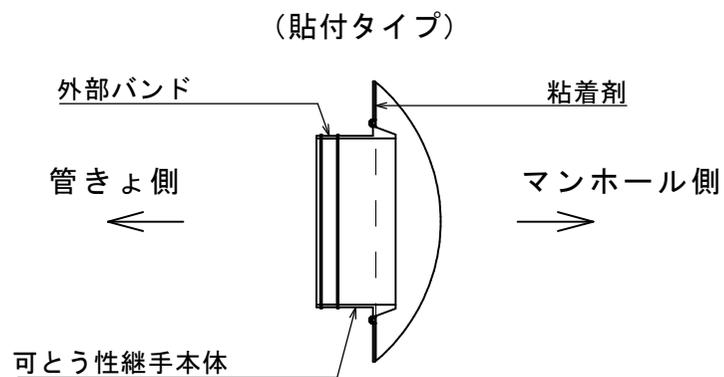
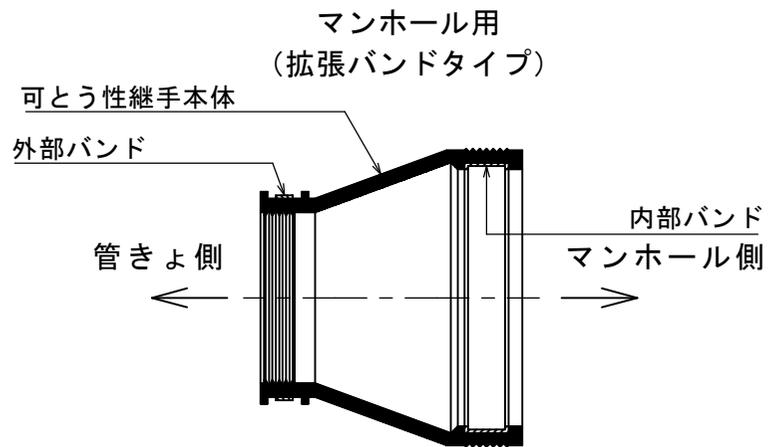
・流出管径60cmを超える場合は、計画管の流入位置を考慮して設置位置を定める。



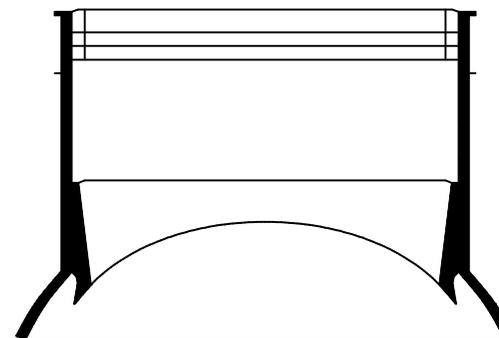
凡例

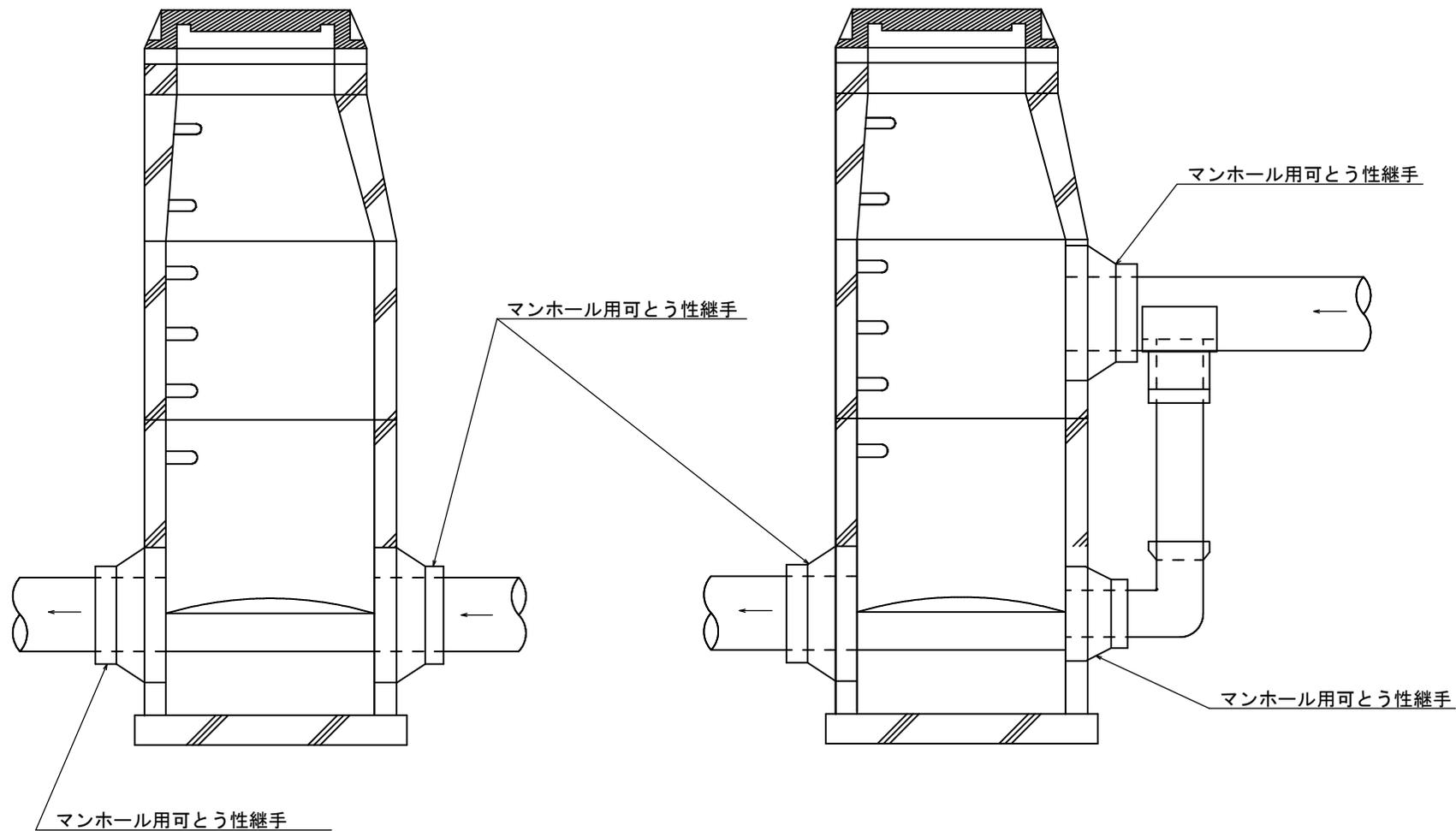
記号	名称
	足掛金物

・ 流出管径60cmを超える場合は、計画管の流入位置を考慮して設置位置を定める。



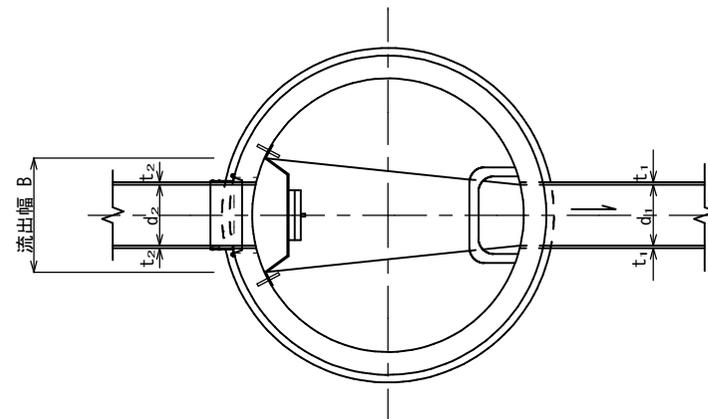
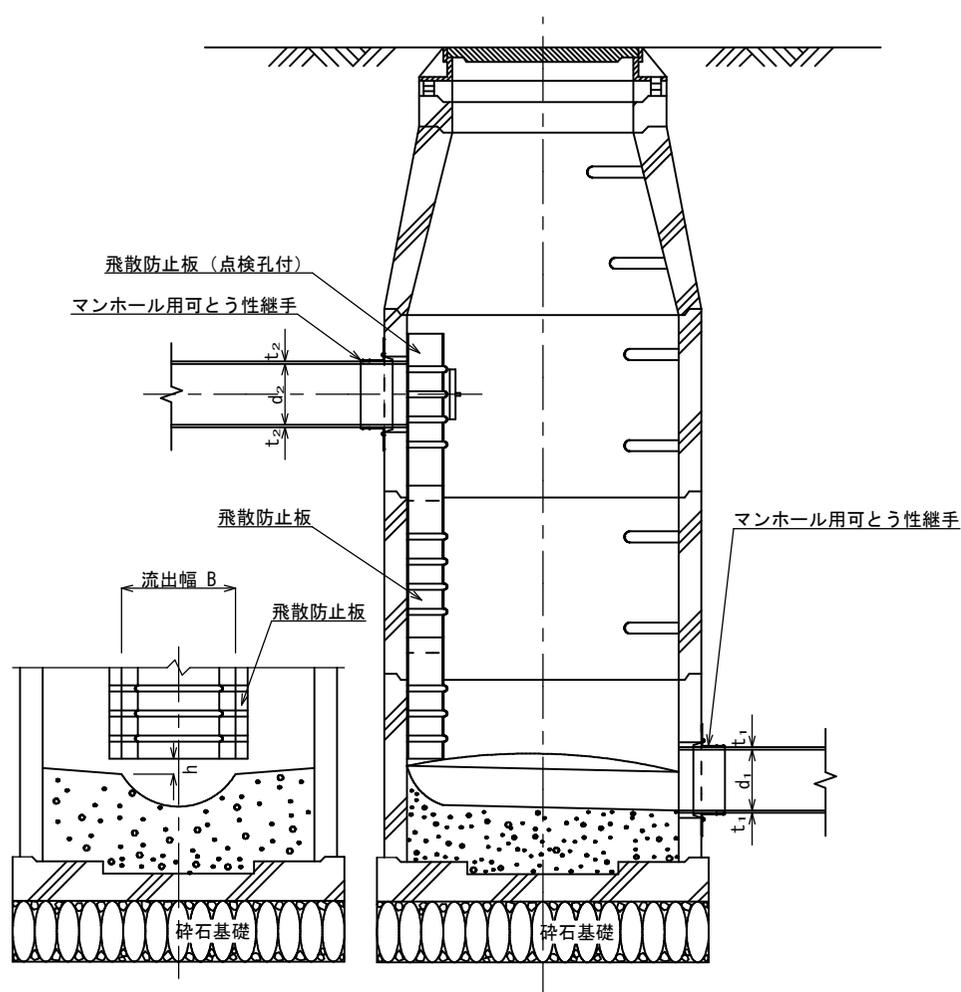
取付管用





断面図

平面図



飛散防止板対応表

		本管径 d_2 (mm)						
		200	250	300	350	400	450以上	
マンホール種別	0号マンホール	×	×	×	×	×	×	
	楕円マンホール	流入平面部	×	×	×	×	×	×
		流入曲面部	○	○	○	○	○	
		1号マンホール	○	○	○	○	○	×
		2号マンホール	○	○	○	○	○	×
		3号マンホール	○	○	○	○	○	×
	4号マンホール	○	○	○	○	○	×	
	5号マンホール	×	×	×	×	×	×	
流出幅 B [mm]		375	395	460	534	534	-	
インバートからの高さh [cm]		2~27	4~29	5~30	6~31	9~34	-	

備考

- ・流入管と流出管の管底差が60cm以上となる場合は飛散防止板を標準構造とするが、あくまで標準であって、構造を限定するものではない。
- ・現場条件等により飛散防止板を採用することが適当でない場合は別途下水道管理者と協議すること。
- ・飛散防止板（点検孔付）設置の際は、流入管の中心と点検孔の中心を合わせて設置すること。
- ・飛散防止板の流出部の処理については、インバートからの高さhの範囲内で飛散防止板を切断して調整すること。ただし、落差の処理及び流下断面確保の観点からインバートからの高さhが最小となるよう調整すること。切断によりボルト孔が失われる場合、新たにボルト孔を設けマンホールに設置すること。
- ・インバートは、飛散防止板の流出幅に合わせて設置すること。

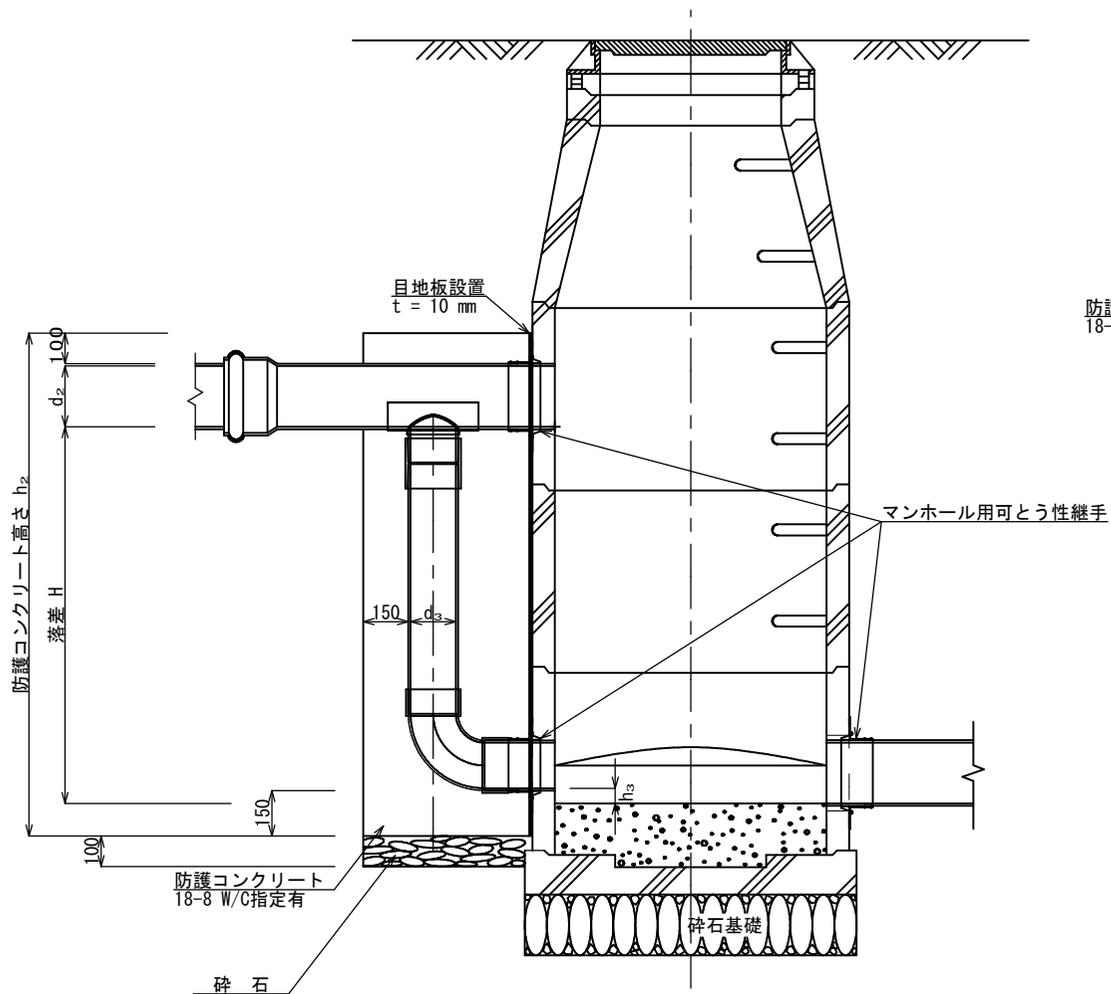
単位：枚

流出管	流入管																								
	φ 200				φ 250				φ 300				φ 350				φ 400								
	管底差 (m)	TA	TB	調整	管底差 (m)	TA	TB	調整	管底差 (m)	TA	TB	調整	管底差 (m)	TA	TB	調整	管底差 (m)	TA	TB	調整					
φ 200	0.60 ~	0.63	1	0	不要	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/				
	0.64 ~	0.88	1	1	要																				
	0.89 ~	1.13	1	1	不要																				
	1.14 ~	1.38	1	2	要																				
	1.39 ~	1.63	1	2	不要																				
	1.64 ~	1.88	1	3	要																				
	1.89 ~	2.13	1	3	不要																				
	2.14 ~	※																							
φ 250	0.60 ~	0.66	1	0	不要	0.60 ~	0.80	1	1	要	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/				
	0.67 ~	0.91	1	1	要	0.81 ~	1.05	1	1	不要															
	0.92 ~	1.16	1	1	不要	1.06 ~	1.30	1	2	要															
	1.17 ~	1.41	1	2	要	1.31 ~	1.55	1	2	不要															
	1.42 ~	1.66	1	2	不要	1.56 ~	1.80	1	3	要															
	1.67 ~	1.91	1	3	要	1.81 ~	2.05	1	3	不要															
	1.92 ~	2.16	1	3	不要	2.06 ~	2.30	1	4	要															
	2.17 ~	※				2.31 ~	※																		
φ 300	0.60 ~	0.68	1	0	不要	0.60 ~	0.83	1	1	要	0.60 ~	0.81	1	1	要	/	/	/	/	/	/				
	0.69 ~	0.93	1	1	要	0.84 ~	1.08	1	1	不要	0.82 ~	1.06	1	1	不要										
	0.94 ~	1.18	1	1	不要	1.09 ~	1.33	1	2	要	1.07 ~	1.31	1	2	要										
	1.19 ~	1.43	1	2	要	1.34 ~	1.58	1	2	不要	1.32 ~	1.56	1	2	不要										
	1.44 ~	1.68	1	2	不要	1.59 ~	1.83	1	3	要	1.57 ~	1.81	1	3	要										
	1.69 ~	1.93	1	3	要	1.84 ~	2.08	1	3	不要	1.82 ~	2.06	1	3	不要										
	1.94 ~	2.18	1	3	不要	2.09 ~	2.33	1	4	要	2.07 ~	2.31	1	4	要										
	2.19 ~	※				2.34 ~	※				2.32 ~	※													
φ 350	0.60 ~	0.71	1	0	不要	0.60 ~	0.85	1	1	要	0.60 ~	0.84	1	1	要	0.60 ~	0.82	1	1	要	/	/			
	0.72 ~	0.96	1	1	要	0.61 ~	0.85	1	1	不要	0.85 ~	1.09	1	1	不要	0.83 ~	1.07	1	1	不要					
	0.97 ~	1.21	1	1	不要	0.86 ~	1.10	1	1	不要	1.10 ~	1.34	1	2	要	1.08 ~	1.32	1	2	要					
	1.22 ~	1.46	1	2	要	1.11 ~	1.35	1	2	要	1.35 ~	1.59	1	2	不要	1.33 ~	1.57	1	2	不要					
	1.47 ~	1.71	1	2	不要	1.36 ~	1.60	1	2	不要	1.60 ~	1.84	1	3	要	1.58 ~	1.82	1	3	要					
	1.72 ~	1.96	1	3	要	1.61 ~	1.85	1	3	要	1.85 ~	2.09	1	3	不要	1.83 ~	2.07	1	3	不要					
	1.97 ~	2.21	1	3	不要	1.86 ~	2.10	1	3	不要	2.10 ~	2.34	1	4	要	2.08 ~	2.32	1	4	要					
	2.22 ~	※				2.11 ~	※				2.35 ~	※				2.33 ~	※								
φ 400	0.60 ~	0.73	1	0	不要	0.60 ~	0.63	1	0	不要	0.60 ~	0.61	1	0	不要	0.60 ~	0.85	1	1	要	0.60 ~	0.85	1	0	不要
	0.74 ~	0.98	1	1	要	0.64 ~	0.88	1	1	要	0.62 ~	0.86	1	1	要	0.86 ~	1.10	1	1	不要	0.61 ~	0.85	1	1	要
	0.99 ~	1.23	1	1	不要	0.89 ~	1.13	1	1	不要	0.87 ~	1.11	1	1	不要	1.11 ~	1.35	1	2	要	0.86 ~	1.10	1	1	不要
	1.24 ~	1.48	1	2	要	1.14 ~	1.38	1	2	要	1.12 ~	1.36	1	2	要	1.36 ~	1.60	1	2	不要	0.86 ~	1.10	1	1	不要
	1.49 ~	1.73	1	2	不要	1.39 ~	1.63	1	2	不要	1.37 ~	1.61	1	2	不要	1.61 ~	1.85	1	3	要	1.11 ~	1.60	1	2	不要
	1.74 ~	1.98	1	3	要	1.64 ~	1.88	1	3	要	1.62 ~	1.86	1	3	要	1.86 ~	2.10	1	3	不要	1.36 ~	1.85	1	3	要
	1.99 ~	2.23	1	3	不要	1.89 ~	2.13	1	3	不要	1.87 ~	2.11	1	3	不要	2.11 ~	2.35	1	4	要	1.61 ~	2.10	1	3	不要
	2.24 ~	※				2.14 ~	※				2.12 ~	※				2.36 ~	※				2.11 ~	※			

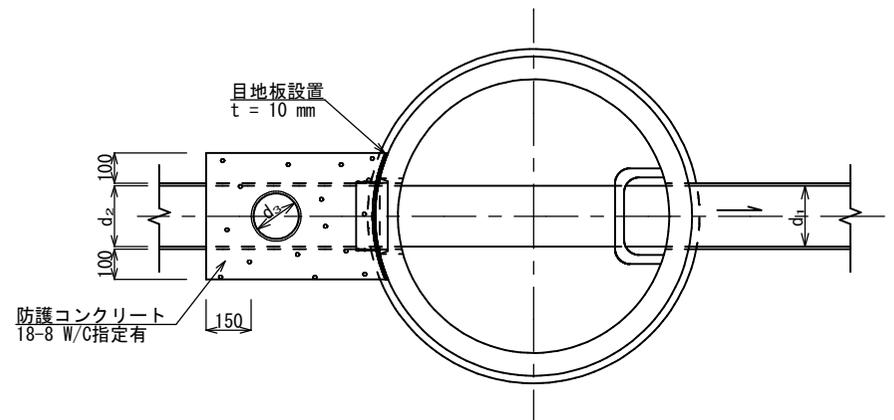
※表記されている管底差より大きくなる場合は、それぞれの適用範囲0.50m毎にTBを1枚ずつ追加する。

- ・ TA：飛散防止板（点検孔付），TB：飛散防止板
- ・ 高さ調整のためのTB切断の要・不要については0.25m毎に変わるため設置の際は留意すること。

断面図



平面図



副管径対応表

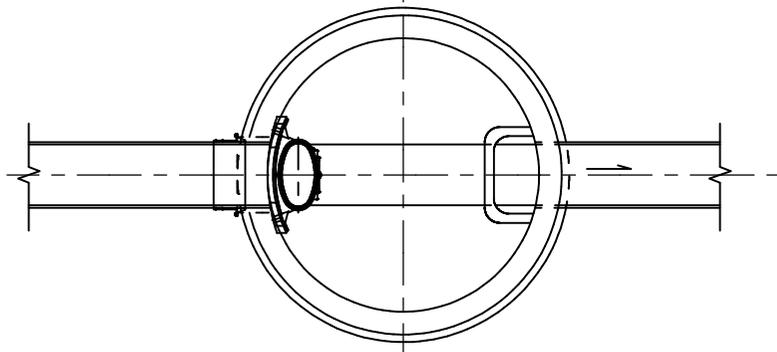
本管径 d_2	副管径 d_3
200	150
250~400	200
450~500	250
600	300
700以上	別途考慮

(単位: mm)

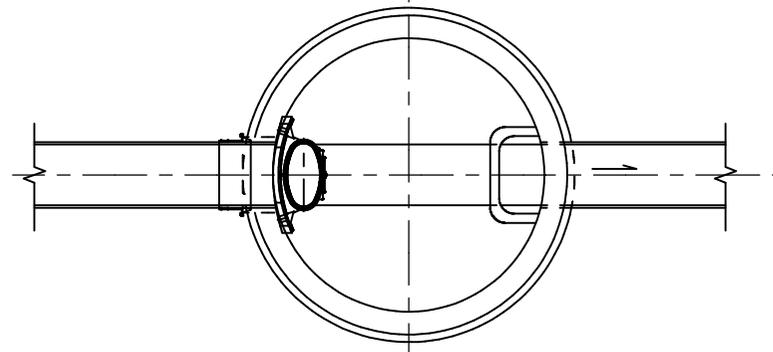
備考

- h_3 は5cmの段差を確保する。ただし、段差5cm以上確保できる場合は、副管管頂とインバート天端を一致させる。
- 防護コンクリートとマンホールの間に設置する目地板は、防護コンクリートとマンホールの縁を切るように、かつ、マンホール用可とう継手の効果を失わせないように設置すること。
- 副管防護コンクリートの直上流側には、耐震性を発現させるよう本管継手を設けること。
- 防護コンクリートに使用する生コンクリートは水セメント比が60%以下のものを使用すること。

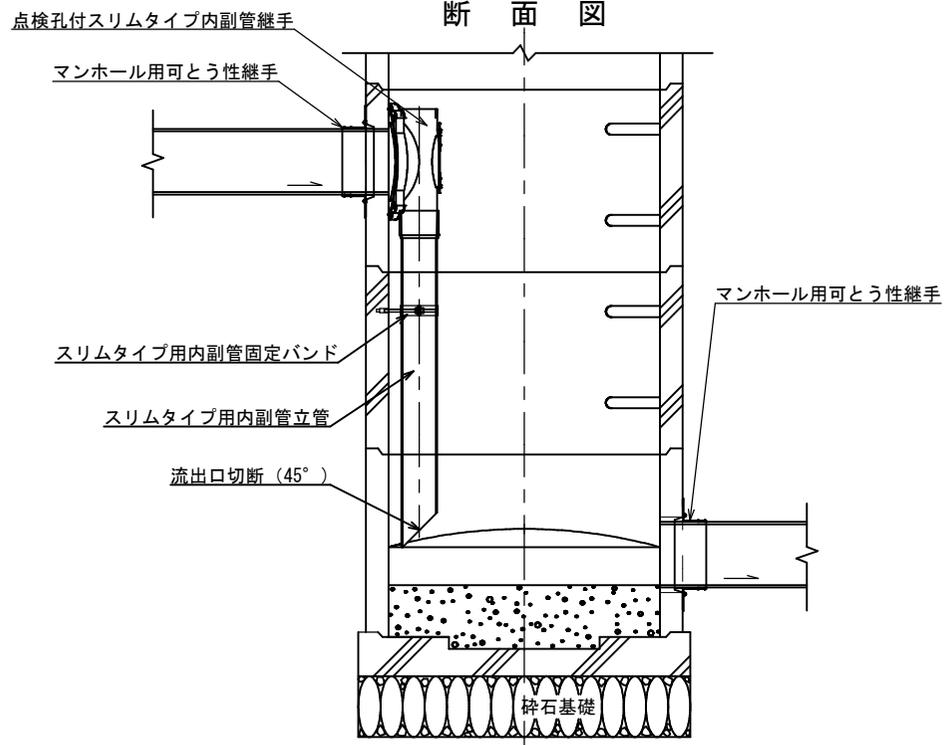
平面図



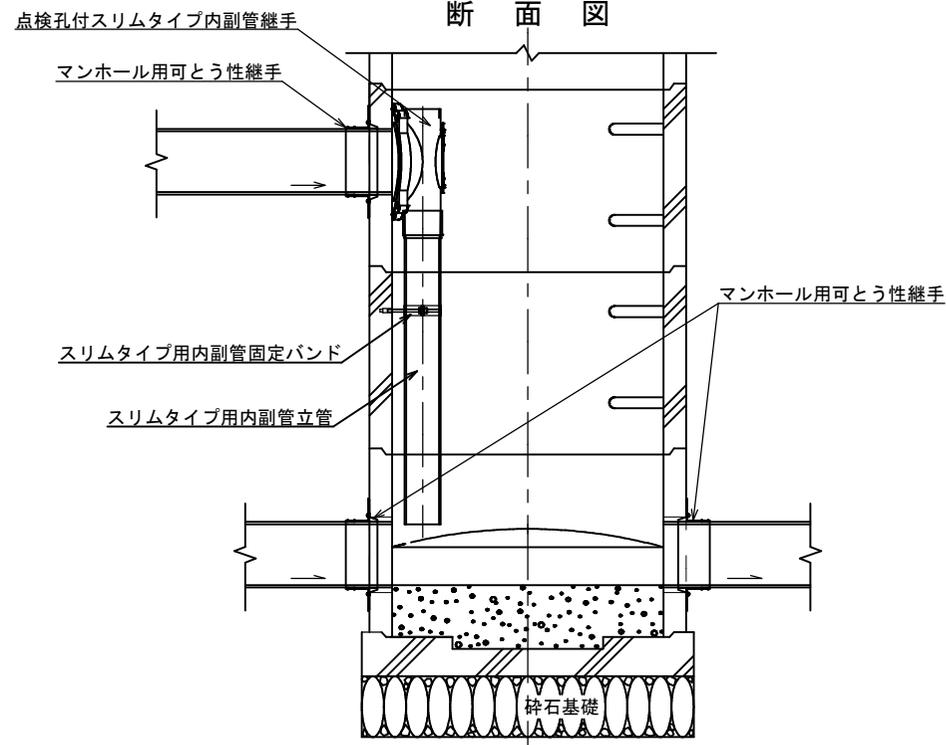
平面図



断面図

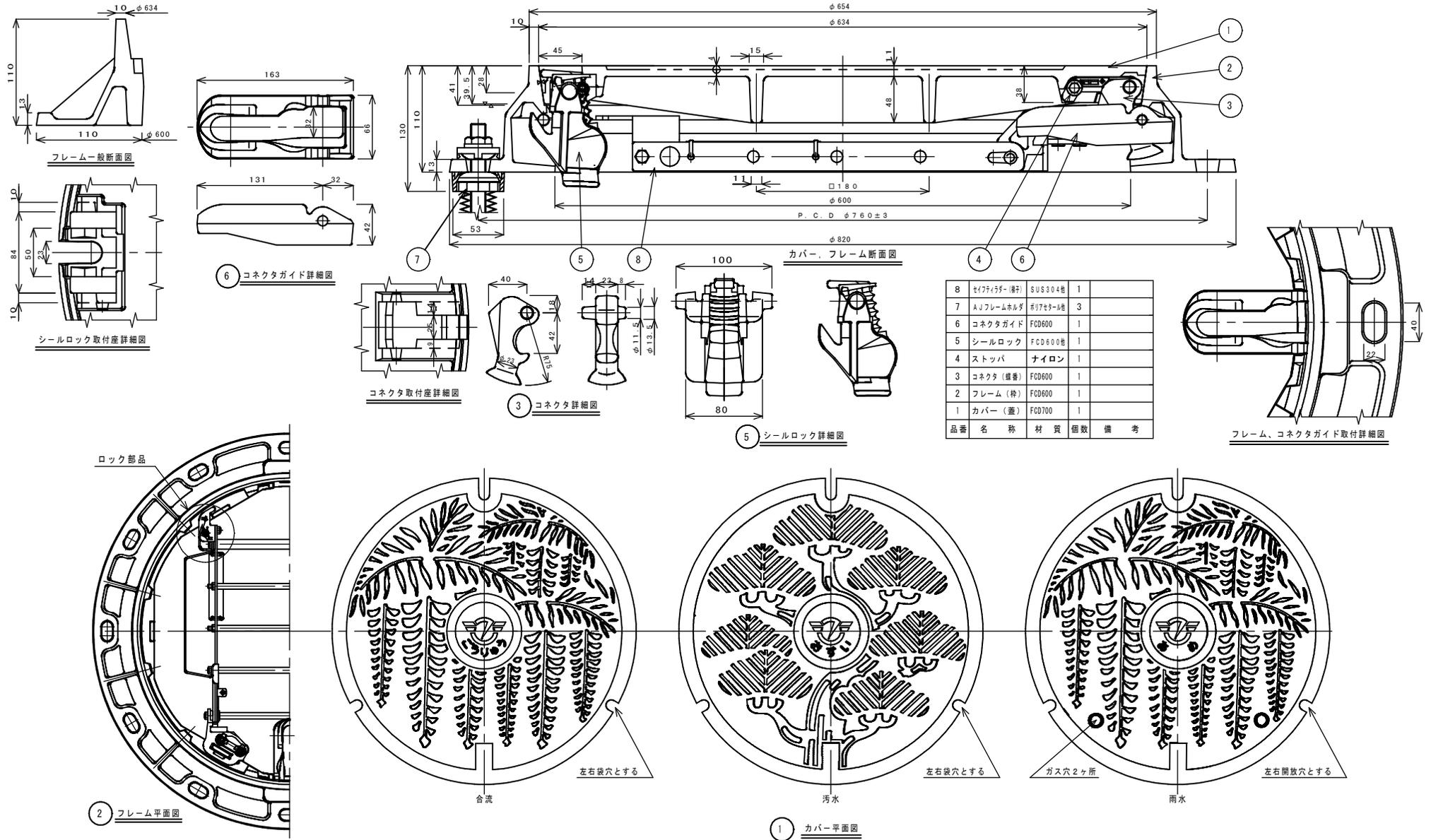


断面図

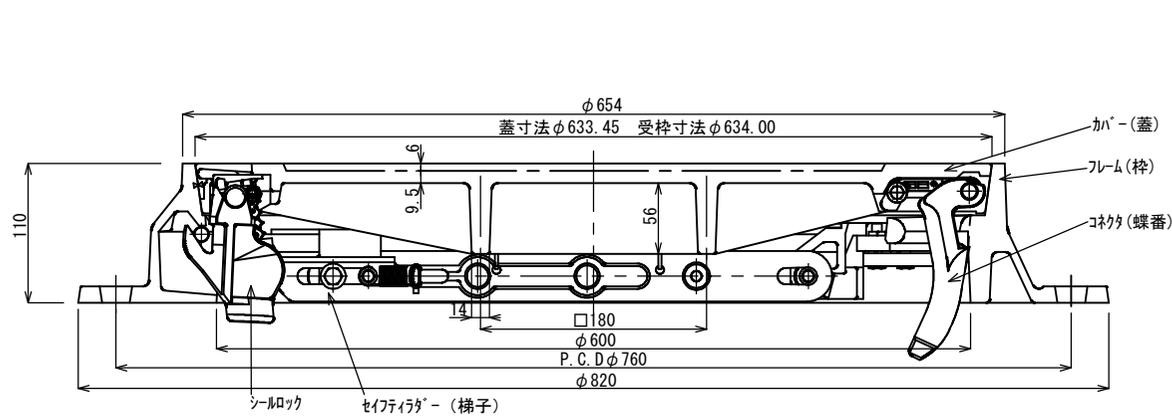


備考

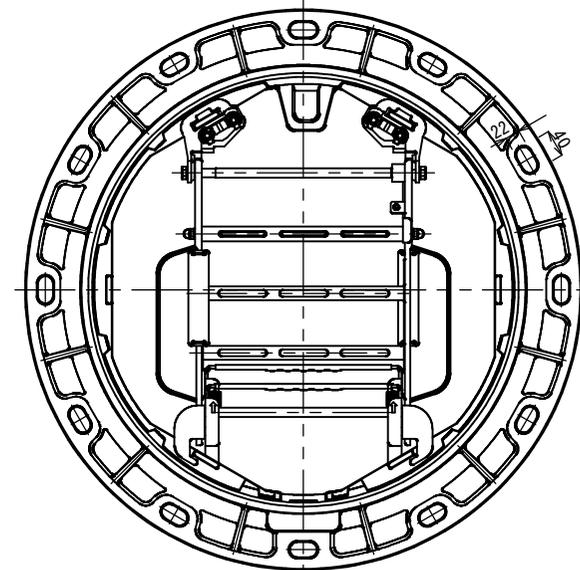
- ・ 固定バンドについては、立管1.5mにつき1箇所設置し固定すること。
- ・ 内副管の流出口については、内副管の直下に流入がある場合は下側の流入管頂に合わせ、それ以外の場合はインパートの肩に合わせて設置し、流出口を45°に切断すること。



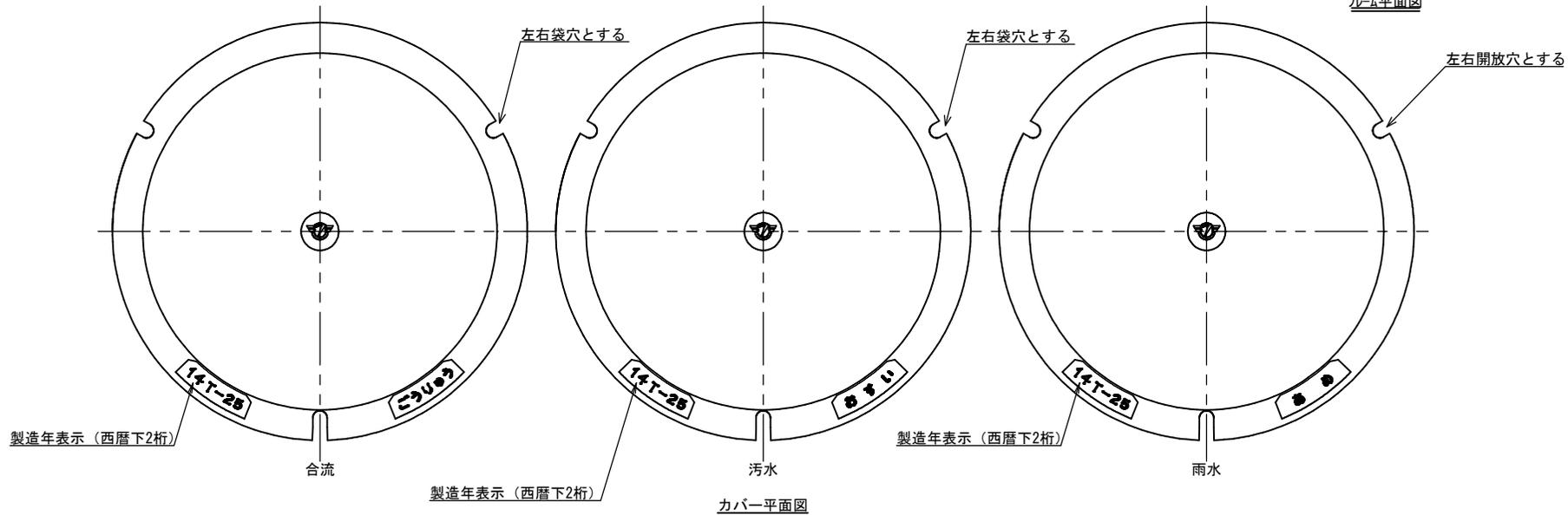
・藤沢市の認定を受けた工場で作られた製品に限り使用可能とする（認定工場及び製造業者については、下水道管路課へ確認してください）。
 ただし、圧力対応型等の鉄蓋については、別途下水道管理者と協議すること。



カバー、フレーム断面図



フレーム平面図



カバー平面図

・藤沢市の認定を受けた工場で作られた製品に限り使用可能とする（認定工場及び製造業者については、下水道管路課へ確認してください）。
 ただし、圧力対応型等の鉄蓋については、別途下水道管理者と協議すること。